

マ テ リ ア ル 理 工 学 専 攻

<前期課程>

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主 専 攻 科 目	基 礎 科 目	セミナー	マテリアル工学1	小橋 真 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年前期, 2年前期		
		講義	マテリアル工学2	是津 信行 准教授, 棚橋 満 講師	2	1年後期, 2年後期		
		実験・演習	物性物理のすすめ	美宅 成樹 教授, 田仲 由喜夫 教授	2	1年前期, 2年前期		
			エネルギー・物質工学	各教員 (マテリアル理工学専攻)	2	1年後期, 2年後期		
			材料電磁プロセス工学セミナー1A	岩井 一彦 准教授	2	1年前期		
	主 分 野 科 目	セ ミ ナ ー		材料電磁プロセス工学セミナー1B	岩井 一彦 准教授	2	1年後期	
				材料電磁プロセス工学セミナー1C	岩井 一彦 准教授	2	2年前期	
				材料電磁プロセス工学セミナー1D	岩井 一彦 准教授	2	2年後期	
				高圧力物質科学セミナー1A	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	1年前期	
				高圧力物質科学セミナー1B	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	1年後期	
				高圧力物質科学セミナー1C	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	2年前期	
				高圧力物質科学セミナー1D	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	2年後期	
				結晶成長学セミナー1A	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	1年前期	
				結晶成長学セミナー1B	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	1年後期	
				結晶成長学セミナー1C	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	2年前期	
				結晶成長学セミナー1D	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	2年後期	
				材料再生プロセス工学セミナー1A	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年前期	
				材料再生プロセス工学セミナー1B	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年後期	
				材料再生プロセス工学セミナー1C	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年前期	
				材料再生プロセス工学セミナー1D	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年後期	
				表界面工学セミナー1A	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年前期	
				表界面工学セミナー1B	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年後期	
				表界面工学セミナー1C	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年前期	
				表界面工学セミナー1D	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年後期	
				材料設計工学セミナー1A	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	1年前期	
				材料設計工学セミナー1B	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	1年後期	
				材料設計工学セミナー1C	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	2年前期	
				材料設計工学セミナー1D	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	2年後期	
				シンクロトン光応用工学セミナー1A	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年前期	
				シンクロトン光応用工学セミナー1B	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年後期	
				シンクロトン光応用工学セミナー1C	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年前期	
				シンクロトン光応用工学セミナー1D	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年後期	
				材料加工工学セミナー1A	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年前期	
				材料加工工学セミナー1B	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年後期	
				材料加工工学セミナー1C	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年前期	
				材料加工工学セミナー1D	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年後期	
				材料物理化学セミナー1A	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年前期	
				材料物理化学セミナー1B	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年後期	
				材料物理化学セミナー1C	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年前期	
				材料物理化学セミナー1D	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年後期	
				材料開発工学セミナー1A	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年前期	
				材料開発工学セミナー1B	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年後期	
				材料開発工学セミナー1C	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年前期	
				材料開発工学セミナー1D	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年後期	
				材料構造制御工学セミナー1A	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年前期	
				材料構造制御工学セミナー1B	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年後期	
				材料構造制御工学セミナー1C	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年前期	
				材料構造制御工学セミナー1D	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 真 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年後期	
				スピン物性工学セミナー1A	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	1年前期	
				スピン物性工学セミナー1B	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	1年後期	
	スピン物性工学セミナー1C	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	2年前期				
	スピン物性工学セミナー1D	浅野 哲也 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 秀文 助教	2	2年後期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主 専 攻 科 目	主 分 野 科 目	セ ミ ナ ー	バイオイメージング工学セミナー1A	白倉 治郎 教授	2	1年前期		
			バイオイメージング工学セミナー1B	白倉 治郎 教授	2	1年後期		
			バイオイメージング工学セミナー1C	白倉 治郎 教授	2	2年前期		
			バイオイメージング工学セミナー1D	白倉 治郎 教授	2	2年後期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1A	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年前期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1B	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年後期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1C	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年前期		
			低環境負荷材料工学セミナー 1D	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年後期		
			材料分子科学セミナー 1A	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	1年前期		
			材料分子科学セミナー 1B	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	1年後期		
			材料分子科学セミナー 1C	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	2年前期		
			材料分子科学セミナー 1D	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	2年後期		
			ナノ構造評価学セミナー1A	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年前期		
			ナノ構造評価学セミナー1B	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年後期		
			ナノ構造評価学セミナー1C	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年前期		
			ナノ構造評価学セミナー1D	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年後期		
			材料解析学セミナー1A	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年前期		
			材料解析学セミナー1B	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年後期		
			材料解析学セミナー1C	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	2年前期		
			材料解析学セミナー1D	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	2年後期		
			無機材料設計セミナー1A	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	1年前期		
			無機材料設計セミナー1B	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	1年後期		
			無機材料設計セミナー1C	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	2年前期		
			無機材料設計セミナー1D	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	2年後期		
			物性基礎工学セミナー1A	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年前期	
			物性基礎工学セミナー1B	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年後期	
			物性基礎工学セミナー1C	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年前期	
			物性基礎工学セミナー1D	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年後期	
			光物理学セミナー1A	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		1年前期	
			光物理学セミナー1B	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		1年後期	
			光物理学セミナー1C	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		2年前期	
			光物理学セミナー1D	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		2年後期	
			量子物性工学セミナー1A	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		1年前期	
			量子物性工学セミナー1B	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		1年後期	
			量子物性工学セミナー1C	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		2年前期	
			量子物性工学セミナー1D	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		2年後期	
			計算数理工学セミナー1A	張史 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 宮田 考 助教	2		1年前期	
			計算数理工学セミナー1B	張史 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 宮田 考 助教	2		1年後期	
			計算数理工学セミナー1C	張史 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 宮田 考 助教	2		2年前期	
			計算数理工学セミナー1D	張史 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 宮田 考 助教	2		2年後期	
構造物性工学セミナー1A	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚 助教	2		1年前期				
構造物性工学セミナー1B	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚 助教	2		1年後期				
構造物性工学セミナー1C	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚 助教	2		2年前期				
構造物性工学セミナー1D	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚 助教	2		2年後期				
生体物性工学セミナー1A	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		1年前期				
生体物性工学セミナー1B	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		1年後期				
生体物性工学セミナー1C	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		2年前期				
生体物性工学セミナー1D	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		2年後期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主専攻科目	主分野科目	セミナー	電子物性工学セミナー1A	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		1年前期	
			電子物性工学セミナー1B	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		1年後期	
			電子物性工学セミナー1C	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		2年前期	
			電子物性工学セミナー1D	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		2年後期	
			計算物性工学セミナー1A	笹井 浄慈 理生 助教, 寺田 智樹 講師, 千見寺 理生 助教	2		1年前期	
			計算物性工学セミナー1B	笹井 浄慈 理生 助教, 寺田 智樹 講師, 千見寺 理生 助教	2		1年後期	
			計算物性工学セミナー1C	笹井 浄慈 理生 助教, 寺田 智樹 講師, 千見寺 理生 助教	2		2年前期	
			計算物性工学セミナー1D	笹井 浄慈 理生 助教, 寺田 智樹 講師, 千見寺 理生 助教	2		2年後期	
			計算流体力学セミナー1A	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教	2		1年前期	
			計算流体力学セミナー1B	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教	2		1年後期	
			計算流体力学セミナー1C	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教	2		2年前期	
			計算流体力学セミナー1D	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教	2		2年後期	
			結晶デバイスセミナー1A	財満 鑽明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助教	2		1年前期	
			結晶デバイスセミナー1B	財満 鑽明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助教	2		1年後期	
			結晶デバイスセミナー1C	財満 鑽明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助教	2		2年前期	
			結晶デバイスセミナー1D	財満 鑽明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助教	2		2年後期	
			ナノ構造解析学セミナー1A	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸 助教	2		1年前期	
			ナノ構造解析学セミナー1B	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸 助教	2		1年後期	
			ナノ構造解析学セミナー1C	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸 助教	2		2年前期	
			ナノ構造解析学セミナー1D	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸 助教	2		2年後期	
			エネルギー機能材料工学セミナー1A	柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授	2			1年前期
			エネルギー機能材料工学セミナー1B	柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授	2			1年後期
			エネルギー機能材料工学セミナー1C	柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授	2			2年前期
			エネルギー機能材料工学セミナー1D	柚原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授	2			2年後期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1A	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教授, 巽 一敏 准教授	2			1年前期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1B	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教授, 巽 一敏 准教授	2			1年後期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1C	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教授, 巽 一敏 准教授	2			2年前期
			極限環境エネルギー材料科学セミナー1D	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教授, 巽 一敏 准教授	2			2年後期
			中性子・原子核科学セミナー1A	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 山崎 淳 助教	2			1年前期
			中性子・原子核科学セミナー1B	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 山崎 淳 助教	2			1年後期
			中性子・原子核科学セミナー1C	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 山崎 淳 助教	2			2年前期
			中性子・原子核科学セミナー1D	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授, 山崎 淳 助教	2			2年後期
			エネルギー量子制御工学セミナー1A	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			1年前期
			エネルギー量子制御工学セミナー1B	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			1年後期
			エネルギー量子制御工学セミナー1C	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			2年前期
			エネルギー量子制御工学セミナー1D	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			2年後期
			先端のエネルギー源材料セミナー1A	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教授, 吉野 正人 助教	2			1年前期
			先端のエネルギー源材料セミナー1B	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教授, 吉野 正人 助教	2			1年後期
			先端のエネルギー源材料セミナー1C	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教授, 吉野 正人 助教	2			2年前期
			先端のエネルギー源材料セミナー1D	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教授, 吉野 正人 助教	2			2年後期
エネルギー材料プロセスセミナー1A	覆田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			1年前期			
エネルギー材料プロセスセミナー1B	覆田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			1年後期			
エネルギー材料プロセスセミナー1C	覆田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			2年前期			
エネルギー材料プロセスセミナー1D	覆田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			2年後期			
熱エネルギーシステム工学セミナー1A	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年前期			
熱エネルギーシステム工学セミナー1B	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年後期			
熱エネルギーシステム工学セミナー1C	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			2年前期			
熱エネルギーシステム工学セミナー1D	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			2年後期			
エネルギー環境工学セミナー1A	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			1年前期			
エネルギー環境工学セミナー1B	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			1年後期			
エネルギー環境工学セミナー1C	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			2年前期			
エネルギー環境工学セミナー1D	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			2年後期			

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期			
					分野			
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	エネルギー材料デバイス工学セミナー1A	山崎 耕造 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年前期	
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1B	山崎 耕造 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年後期	
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1C	庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年前期	
		エネルギー材料デバイス工学セミナー1D	庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年後期	
		量子ビーム物性工学セミナー1A	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年前期	
		量子ビーム物性工学セミナー1B	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年後期	
		量子ビーム物性工学セミナー1C	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年前期	
		量子ビーム物性工学セミナー1D	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年後期	
		量子ビーム計測工学セミナー1A	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年前期	
		量子ビーム計測工学セミナー1B	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年後期	
		量子ビーム計測工学セミナー1C	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年前期	
		量子ビーム計測工学セミナー1D	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年後期	
		材料プロセス設計工学特論	岩井 一彦 准教授	2	2年後期			
		材料電磁プロセス特論	岩井 一彦 准教授	2	1年前期			
		高圧力物質科学Ⅰ	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授	2	1年後期			
	高圧力物質科学Ⅱ	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授	2	2年後期				
	結晶成長プロセス特論	宇治原 徹 教授	2	2年前期				
	結晶成長工学特論	宇治原 徹 教授	2	1年前期				
	材料再生プロセス工学特論	平澤 政廣 教授	2	1年前期				
	材料反応工学特論	平澤 政廣 教授	2	2年後期				
	材料表面化学特論	興戸 正純 教授, 市野 良一 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年後期				
	電気化学プロセス特論	興戸 正純 教授, 市野 良一 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年前期				
	材料計測工学特論	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授	2	2年後期				
	プラズマ材料工学特論	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授	2	1年前期				
	塑性計算力学特論	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授	2	1年後期				
	材料塑性加工工学特論	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授	2	2年前期				
	鍛造特論	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 非常勤講師	2	1年前期後期				
	高温物理化学特論	藤澤 敏治 教授	2	1年後期				
	材料分離・精製工学特論	藤澤 敏治 教授	2	2年前期				
	材料組織形成学特論	村田 純教 教授	2	1年前期				
	エネルギー材料組織学特論	村田 純教 教授	2	2年前期				
	複合材料設計学特論	金武 直幸 教授, 小橋 眞 准教授	2	1年後期				
	複合プロセス工学特論	金武 直幸 教授, 小橋 眞 准教授	2	2年後期				
	スピン物性工学特論Ⅰ	浅野 秀文 教授	2	1年後期				
	スピン物性工学特論Ⅱ	植田 研二 准教授	2	2年前期				
	材料ナノ構造設計学特論	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授	2	1年後期				
	材料機能設計学特論	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授	2	2年前期				
	ナノ構造評価学特論	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授	2	1年後期 2年後期				
	シンクロトロン光物性学特論	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授	2	2年後期				
	シンクロトロン光応用工学特論	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授	2	1年前期				
	分離計測特論	平出 正孝 教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年前期				
	機能開発工学特論	北 英紀 教授, 棚橋 満 講師	2	2年前期				
	細胞構造学特論	白倉 治郎 教授	2	2年後期				
	バイオイメーキング工学特論	白倉 治郎 教授	2	1年前期				
	分子物質化学特論	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授	2	1年後期				
分子物質物性特論	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授	2	2年後期					
材料工学特論Ⅰ	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期					
材料工学特論Ⅱ	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期					
材料工学特論Ⅲ	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期					
材料工学特論Ⅳ	非常勤講師 (マテリアル)	1	1年前期後期 2年前期後期					
量子基礎工学特論	未定	2		2年後期				
固体電子論特論	田仲 由喜夫 教授	2		1年前期				
光物性学特論	未定	2		2年後期				
固体物性学特論	岸田 英夫 教授	2		1年前期				
凝縮系物性学特論	黒田 新一 教授	2		1年後期				
有機固体物性学特論	伊東 裕 准教授	2		2年後期				
構造物性学特論	西堀 英治 准教授	2		1年前期				
回折物理学特論	澤 博 教授	2		2年前期				
生体物理学特論	美宅 成樹 教授	2		1年後期				
ナノ構造物性学特論	美宅 成樹 教授	2		2年後期				
大規模並列数値計算特論	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 吉井 範行 助教, 永井 亨 助教, 岡本 直也 助教	2		1年前期 2年前期				
計算科学フロンティア連続講義	計算科学連携教育研究センター関連教員	2		1年後期 2年後期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	講 義	応用物理学特論 I	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期	
		応用物理学特論 II	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期	
		応用物理学特論 III	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期	
		応用物理学特論 IV	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期	
		応用物理学特論 V	非常勤講師 (マテリアル)	1		1年前期後期 2年前期後期	
		応用物理学特論 VI	非常勤講師 (マテリアル)	2		1年前期	
		エネルギー機能材料工学特論	袖原 淳司 准教授, 山田 智明 准教授	2			2年前期
		先端のエネルギー源材料特論	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教授	2			1年前期
		エネルギー材料化学	吉田 朋子 准教授	2			1年前期 2年前期
		高エネルギー電子分光特論	武藤 俊介 教授, 巽 一徹 准教授	2			1年後期
		中性子・原子核科学特論	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教授	2			1年前期
		エネルギー科学特論	山崎 耕造 教授	2			1年前期
		エネルギー量子制御工学特論	山本 章夫 教授	2			1年後期 2年後期
		核融合炉システム工学	山崎 耕造 教授, 杉山 貴彦 准教授	2			1年後期
		エネルギー材料プロセス工学	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授	2			1年前期 2年前期
		エネルギー熱流体工学特論	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年後期 2年後期
		エネルギー環境安全工学特論	山澤 弘実 教授, 森森 純 准教授	2			1年後期 2年後期
		量子ビーム物性工学特論	曾田 一雄 教授	2			1年前期 2年前期
		量子ビーム計測学特論	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授	2			1年後期 2年後期
		量子エネルギー工学特別講義 I	非常勤講師 (マテリアル)	1			
	量子エネルギー工学特別講義 II	非常勤講師 (マテリアル)	1				
	実 験 ・ 演 習	材料工学特別実験及び演習 A	各教員 (マテリアル)	1	1年前期		
		材料工学特別実験及び演習 B	各教員 (マテリアル)	1	1年後期		
		応用物理学特別実験及び演習 A	各教員 (マテリアル)	1		1年前期	
		応用物理学特別実験及び演習 B	各教員 (マテリアル)	1		1年後期	
		量子エネルギー工学特別実験及び演習 A	各教員 (マテリアル)	1			1年前期
		量子エネルギー工学特別実験及び演習 B	各教員 (マテリアル)	1			1年後期
原子炉実験	山本 章夫 教授	2			1年前期		
他分野科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻の主専攻科目の中で、基礎科目と主分野科目に該当しない科目					
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目					
総合工学科 目(*印はグ ローバルCOE 科目)	科学技術表現論	各教員 (マテリアル)	1		1年前期, 2年前期		
	高度総合工学創造実験	井口 哲夫 教授	3		1年前期後期, 2年前期後期		
	研究インターンシップ 1	井口 哲夫 教授	2~8		1年前期後期, 2年前期後期		
	最先端理工学特論	永野 修作 准教授	1		1年前期後期, 2年前期後期		
	最先端理工学実験	永野 修作 准教授	1		1年前期後期, 2年前期後期		
	コミュニケーション学	古谷 礼子 准教授	1		1年後期, 2年後期		
	実践科学技術英語	未定	2		1年前期, 2年前期		
	科学技術英語特論	非常勤講師	1		1年後期, 2年後期		
	ベンチャービジネス特論 I	永野 修作 准教授	2		1年前期, 2年前期		
	ベンチャービジネス特論 II	永野 修作 准教授, 枝川 明敬 客員教授	2		1年後期, 2年後期		
	学外実習 A	各教員 (マテリアル)	1		1年前期後期, 2年前期後期		
	学外実習 B	各教員 (マテリアル)	1		1年前期後期, 2年前期後期		
	国際力ベーシック*	大日方 五郎 教授, 成瀬 一郎 教授	1		1年前期後期, 2年前期後期		
医療と技術セミナー*	特任教員	1		1年前期後期, 2年前期後期			
他研究科等科目	本学大学院の他の研究科で開講される授業科目, 大学院共通科目, 単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時に おいて当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目						
研究指導							
履修方法及び研究指導							
1. 以下の一〜四の各項を満たし、合計30単位以上 一 主専攻科目: イ 基礎科目2単位以上 ロ 主分野科目の中から、セミナー4単位、実験・演習2単位を含む12単位以上 ハ 他分野科目の中から2単位以上 二 副専攻科目の中から2単位以上 三 総合工学科目の中から2単位以上。ただし、6単位までを修了要件単位として認め、6単位を超えた分は随意科目の単位として扱う。 四 他研究科等科目は4単位までを修了要件単位として認め、4単位を超えた分は随意科目の単位として扱う							
2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること							

マテリアル理工学専攻

＜後期課程＞

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	材料電磁プロセス工学セミナー2A	岩井 一彦 准教授	2	1年前期		
		材料電磁プロセス工学セミナー2B	岩井 一彦 准教授	2	1年後期		
		材料電磁プロセス工学セミナー2C	岩井 一彦 准教授	2	2年前期		
		材料電磁プロセス工学セミナー2D	岩井 一彦 准教授	2	2年後期		
		材料電磁プロセス工学セミナー2E	岩井 一彦 准教授	2	3年前期		
		高圧力物質科学セミナー2A	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	1年前期		
		高圧力物質科学セミナー2B	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	1年後期		
		高圧力物質科学セミナー2C	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	2年前期		
		高圧力物質科学セミナー2D	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	2年後期		
		高圧力物質科学セミナー2E	長谷川 正 教授, 草場 啓治 准教授, 丹羽 健 助教	2	3年前期		
		結晶成長学セミナー2A	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	1年前期		
		結晶成長学セミナー2B	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	1年後期		
		結晶成長学セミナー2C	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	2年前期		
		結晶成長学セミナー2D	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	2年後期		
		結晶成長学セミナー2E	宇治原 徹 教授, 原田 俊太 助教	2	3年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー2A	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー2B	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	1年後期		
		材料再生プロセス工学セミナー2C	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年前期		
		材料再生プロセス工学セミナー2D	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	2年後期		
		材料再生プロセス工学セミナー2E	平澤 政廣 教授, 寺門 修 助教	2	3年前期		
		表面面工学セミナー2A	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年前期		
		表面面工学セミナー2B	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	1年後期		
		表面面工学セミナー2C	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年前期		
		表面面工学セミナー2D	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	2年後期		
		表面面工学セミナー2E	興戸 正純 教授, 黒田 健介 准教授	2	3年前期		
		材料設計工学セミナー2A	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	1年前期		
		材料設計工学セミナー2B	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	1年後期		
		材料設計工学セミナー2C	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	2年前期		
		材料設計工学セミナー2D	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	2年後期		
		材料設計工学セミナー2E	松永 克志 教授, 中村 篤智 准教授, 阿部 真之 准教授, 豊浦 和明 助教	2	3年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2A	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2B	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	1年後期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2C	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年前期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2D	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	2年後期		
		シンクロトン光応用工学セミナー2E	高嶋 圭史 教授, 伊藤 孝寛 准教授, 山本 尚人 助教	2	3年前期		
		材料加工工学セミナー2A	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年前期		
		材料加工工学セミナー2B	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	1年後期		
		材料加工工学セミナー2C	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年前期		
		材料加工工学セミナー2D	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	2年後期		
		材料加工工学セミナー2E	石川 孝司 教授, 湯川 伸樹 准教授, 阿部 英嗣 助教, 石黒 太浩 助教	2	3年前期		
材料物理化学セミナー2A	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年前期				
材料物理化学セミナー2B	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	1年後期				
材料物理化学セミナー2C	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年前期				
材料物理化学セミナー2D	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	2年後期				
材料物理化学セミナー2E	藤澤 敏治 教授, 佐野 浩行 助教	2	3年前期				
材料開発工学セミナー2A	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年前期				
材料開発工学セミナー2B	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	1年後期				
材料開発工学セミナー2C	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年前期				
材料開発工学セミナー2D	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	2年後期				
材料開発工学セミナー2E	村田 純教 教授, 湯川 宏 助教	2	3年前期				

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	材料構造制御工学セミナー2A	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年前期		
		材料構造制御工学セミナー2B	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	1年後期		
		材料構造制御工学セミナー2C	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年前期		
		材料構造制御工学セミナー2D	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	2年後期		
		材料構造制御工学セミナー2E	金武 直幸 教授, 伊藤 孝至 准教授, 小橋 眞 准教授, 久米 裕二 助教	2	3年前期		
		スピン物性工学セミナー2A	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	1年前期		
		スピン物性工学セミナー2B	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	1年後期		
		スピン物性工学セミナー2C	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	2年前期		
		スピン物性工学セミナー2D	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	2年後期		
		スピン物性工学セミナー2E	浅野 秀文 教授, 植田 研二 准教授, 宮脇 哲也 助教	2	3年前期		
		バイオイメージング工学セミナー2A	臼倉 治郎 教授	2	1年前期		
		バイオイメージング工学セミナー2B	臼倉 治郎 教授	2	1年後期		
		バイオイメージング工学セミナー2C	臼倉 治郎 教授	2	2年前期		
		バイオイメージング工学セミナー2D	臼倉 治郎 教授	2	2年後期		
		バイオイメージング工学セミナー2E	臼倉 治郎 教授	2	3年前期		
		低環境負荷材料工学セミナー2A	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年前期		
		低環境負荷材料工学セミナー2B	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	1年後期		
		低環境負荷材料工学セミナー2C	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年前期		
		低環境負荷材料工学セミナー2D	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	2年後期		
		低環境負荷材料工学セミナー2E	市野 良一 教授, 神本 祐樹 助教	2	3年前期		
		材料分子科学セミナー2A	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	1年前期		
		材料分子科学セミナー2B	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	1年後期		
		材料分子科学セミナー2C	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	2年前期		
		材料分子科学セミナー2D	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	2年後期		
		材料分子科学セミナー2E	齋藤 永宏 教授, 是津 信行 准教授, 上野 智永 助教	2	3年前期		
		ナノ構造評価学セミナー2A	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年前期		
		ナノ構造評価学セミナー2B	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	1年後期		
		ナノ構造評価学セミナー2C	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年前期		
		ナノ構造評価学セミナー2D	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	2年後期		
		ナノ構造評価学セミナー2E	山本 剛久 教授, 佐々木 勝寛 准教授, 徳永 智春 助教	2	3年前期		
		材料解析学セミナー2A	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年前期		
		材料解析学セミナー2B	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	1年後期		
		材料解析学セミナー2C	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	2年前期		
		材料解析学セミナー2D	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	2年後期		
		材料解析学セミナー2E	香田 忍 教授, 平出 正孝 教授, 松岡 辰郎 准教授, 齋藤 徹 准教授, 松宮 弘明 准教授	2	3年前期		
		無機材料設計セミナー2A	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	1年前期		
		無機材料設計セミナー2B	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	1年後期		
		無機材料設計セミナー2C	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	2年前期		
		無機材料設計セミナー2D	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	2年後期		
		無機材料設計セミナー2E	薩摩 篤 教授, 北 英紀 教授, 沢 邊 恭一 講師, 棚橋 満 講師, 森 隆昌 助教, 大山 順也 助教	2	3年前期		

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	物性基礎工学セミナー2A	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年前期	
		物性基礎工学セミナー2B	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		1年後期	
		物性基礎工学セミナー2C	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年前期	
		物性基礎工学セミナー2D	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		2年後期	
		物性基礎工学セミナー2E	田仲 由喜夫 教授, 大成 誠一郎 助教	2		3年前期	
		光物理学セミナー2A	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		1年前期	
		光物理学セミナー2B	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		1年後期	
		光物理学セミナー2C	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		2年前期	
		光物理学セミナー2D	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		2年後期	
		光物理学セミナー2E	岸田 英夫 教授, 鶴沼 毅也 助教, 小山 剛史 助教	2		3年前期	
		量子物性工学セミナー2A	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		1年前期	
		量子物性工学セミナー2B	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		1年後期	
		量子物性工学セミナー2C	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		2年前期	
		量子物性工学セミナー2D	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		2年後期	
		量子物性工学セミナー2E	黒田 新一 教授, 伊東 裕 准教授, 田中 久暁 助教	2		3年前期	
		計算数理工学セミナー2A	張 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 富田 考史 助教	2		1年前期	
		計算数理工学セミナー2B	張 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 富田 考史 助教	2		1年後期	
		計算数理工学セミナー2C	張 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 富田 考史 助教	2		2年前期	
		計算数理工学セミナー2D	張 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 富田 考史 助教	2		2年後期	
		計算数理工学セミナー2E	張 紹良 教授, 今堀 慎治 講師, 富田 考史 助教	2		3年前期	
		構造物性工学セミナー2A	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚幸 助教	2		1年前期	
		構造物性工学セミナー2B	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚幸 助教	2		1年後期	
		構造物性工学セミナー2C	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚幸 助教	2		2年前期	
		構造物性工学セミナー2D	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚幸 助教	2		2年後期	
		構造物性工学セミナー2E	澤 博 教授, 西堀 英治 准教授, 片山 尚幸 助教	2		3年前期	
		生体物性工学セミナー2A	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		1年前期	
		生体物性工学セミナー2B	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		1年後期	
		生体物性工学セミナー2C	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		2年前期	
		生体物性工学セミナー2D	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		2年後期	
		生体物性工学セミナー2E	美宅 成樹 教授, 横山 泰範 助教	2		3年前期	
		電子物性工学セミナー2A	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		1年前期	
		電子物性工学セミナー2B	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		1年後期	
		電子物性工学セミナー2C	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		2年前期	
		電子物性工学セミナー2D	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		2年後期	
		電子物性工学セミナー2E	生田 博志 教授, 竹中 康司 准教授, 竹内 恒博 准教授	2		3年前期	
		計算物性工学セミナー2A	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 浄慈 助教	2		1年前期	
		計算物性工学セミナー2B	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 浄慈 助教	2		1年後期	
		計算物性工学セミナー2C	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 浄慈 助教	2		2年前期	
		計算物性工学セミナー2D	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 浄慈 助教	2		2年後期	
		計算物性工学セミナー2E	笹井 理生 教授, 寺田 智樹 講師, 千見寺 浄慈 助教	2		3年前期	
		計算流体力学セミナー2A	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		1年前期	
		計算流体力学セミナー2B	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		1年後期	
		計算流体力学セミナー2C	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		2年前期	
		計算流体力学セミナー2D	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		2年後期	
		計算流体力学セミナー2E	石井 克哉 教授, 石原 卓 准教授, 芳松 克則 助教, 岡本 直也 助教	2		3年前期	

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	結晶デバイスセミナー2A	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		1年前期	
		結晶デバイスセミナー2B	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		1年後期	
		結晶デバイスセミナー2C	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		2年前期	
		結晶デバイスセミナー2D	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		2年後期	
		結晶デバイスセミナー2E	財満 顕明 教授, 中塚 理 准教授, 坂下 満男 助教, 竹内 和歌奈 助	2		3年前期	
		ナノ構造解析学セミナー2A	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2		1年前期	
		ナノ構造解析学セミナー2B	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2		1年後期	
		ナノ構造解析学セミナー2C	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2		2年前期	
		ナノ構造解析学セミナー2D	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2		2年後期	
		ナノ構造解析学セミナー2E	齋藤 弥八 教授, 中原 仁 助教, 安坂 幸師 助教	2		3年前期	
		エネルギー機能材料工学セミナー2A	袖原 淳司 准教授, 山田 智明 准	2			1年前期
		エネルギー機能材料工学セミナー2B	袖原 淳司 准教授, 山田 智明 准	2			1年後期
		エネルギー機能材料工学セミナー2C	袖原 淳司 准教授, 山田 智明 准	2			2年前期
		エネルギー機能材料工学セミナー2D	袖原 淳司 准教授, 山田 智明 准	2			2年後期
		エネルギー機能材料工学セミナー2E	袖原 淳司 准教授, 山田 智明 准	2			3年前期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2A	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教 授, 巽 一徹 准教授	2			1年前期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2B	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教 授, 巽 一徹 准教授	2			1年後期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2C	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教 授, 巽 一徹 准教授	2			2年前期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2D	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教 授, 巽 一徹 准教授	2			2年後期
		極限環境エネルギー材料科学セミナー2E	武藤 俊介 教授, 吉田 朋子 准教 授, 巽 一徹 准教授	2			3年前期
		中性子・原子核科学セミナー2A	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教 授, 山崎 淳 助教	2			1年前期
		中性子・原子核科学セミナー2B	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教 授, 山崎 淳 助教	2			1年後期
		中性子・原子核科学セミナー2C	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教 授, 山崎 淳 助教	2			2年前期
		中性子・原子核科学セミナー2D	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教 授, 山崎 淳 助教	2			2年後期
		中性子・原子核科学セミナー2E	瓜谷 章 教授, 渡辺 賢一 准教 授, 山崎 淳 助教	2			3年前期
		エネルギー量子制御工学セミナー2A	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			1年前期
		エネルギー量子制御工学セミナー2B	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			1年後期
		エネルギー量子制御工学セミナー2C	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			2年前期
		エネルギー量子制御工学セミナー2D	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			2年後期
		エネルギー量子制御工学セミナー2E	山本 章夫 教授, 遠藤 知弘 助教	2			3年前期
		先端のエネルギー源材料セミナー2A	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教 授, 吉野 正人 助教	2			1年前期
		先端のエネルギー源材料セミナー2B	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教 授, 吉野 正人 助教	2			1年後期
		先端のエネルギー源材料セミナー2C	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教 授, 吉野 正人 助教	2			2年前期
		先端のエネルギー源材料セミナー2D	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教 授, 吉野 正人 助教	2			2年後期
		先端のエネルギー源材料セミナー2E	長崎 正雅 教授, 松波 紀明 准教 授, 吉野 正人 助教	2			3年前期

科目区分	授業形態	授業科目	担当教員	単位数	開講時期		
					分野		
					材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
主 専 攻 科 目	セ ミ ナ ー	エネルギー材料プロセスセミナー2A	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			1年前期
		エネルギー材料プロセスセミナー2B	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			1年後期
		エネルギー材料プロセスセミナー2C	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			2年前期
		エネルギー材料プロセスセミナー2D	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			2年後期
		エネルギー材料プロセスセミナー2E	榎田 洋一 教授, 澤田 佳代 准教授, 杉山 貴彦 准教授, 平林 大介 助教	2			3年前期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2A	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年前期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2B	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			1年後期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2C	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			2年前期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2D	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			2年後期
		熱エネルギーシステム工学セミナー2E	辻 義之 教授, 伊藤 高啓 准教授	2			3年前期
		エネルギー環境工学セミナー2A	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			1年前期
		エネルギー環境工学セミナー2B	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			1年後期
		エネルギー環境工学セミナー2C	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			2年前期
		エネルギー環境工学セミナー2D	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			2年後期
		エネルギー環境工学セミナー2E	山澤 弘実 教授, 森泉 純 准教授, 平尾 茂一 助教	2			3年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2A	山崎 耕造 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2B	山崎 耕造 教授, 庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			1年後期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2C	庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年前期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2D	庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			2年後期
		エネルギー材料デバイス工学セミナー2E	庄司 多津男 准教授, 有本 英樹 助教	2			3年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2A	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2B	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			1年後期
		量子ビーム物性工学セミナー2C	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年前期
		量子ビーム物性工学セミナー2D	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			2年後期
		量子ビーム物性工学セミナー2E	曾田 一雄 教授, 加藤 政彦 助教	2			3年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2A	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2B	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			1年後期
		量子ビーム計測工学セミナー2C	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年前期
		量子ビーム計測工学セミナー2D	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			2年後期
		量子ビーム計測工学セミナー2E	井口 哲夫 教授, 河原林 順 准教授, 富田 英生 准教授	2			3年前期
副専攻科目	セミナー 講義 実験・演習	当該専攻以外の工学研究科専攻で開講されている授業科目のうち、指導教員並びに専攻長が認めた科目					
総合工学科目 (*印はグローバルCOE科目)	実験指導体験実習1	井口 哲夫 教授	1	1年前期後期, 2年前期後期			
	実験指導体験実習2	永野 修作 准教授	1	1年前期後期, 2年前期後期			
	研究インターンシップ2	井口 哲夫 教授	2~8	1年前期後期, 2年前期後期			
	インターディシプリナリィ・スタディI*	各教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
	インターディシプリナリィ・スタディII*	各教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
	国際力アドバンス*	各教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
	プロジェクト・シミュレーション*	特任教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
	国際技術者倫理および産学連携セミナー*	特任教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
	プロジェクト・プロポーザル*	各教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
	国際ワークショップ企画*	特任教員	2	1年前期後期, 2年前期後期			
他研究科等科目	本学大学院の他の研究科で開講される授業科目, 大学院共通科目, 単位互換協定による他の大学院の授業科目又は工学研究科入学時において当該学生が未履修の学問分野に関する本学学部の授業科目のうち、指導教員及び専攻長が認めた科目						
研究指導							
履修方法及び研究指導							
1. 上記の授業科目及び前期課程の授業科目(既修のものを除く)の中から8単位以上 ただし、上表の主専攻科目セミナーの中から4単位以上							
2. 研究指導については、専攻において定めるところにより、指導教員の指示によること							

<量子エネルギー工学分野>

マテリアル工学1 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	基礎科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義及び実験	
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期1	1年前期	1年前期
開講時期2	2年前期	2年前期
教員	小橋 真 准教授	松宮 弘明 准教授

●本講座の目的およびねらい
マテリアル工学1と2では、材料工学の基礎的事柄について、いくつかのトピックスを通して、講義および演習により学ぶ。とくに、学部では材料工学以外の学科で学び、大学院で材料工学を専攻する学生にとって、この授業は、大学院において、材料工学の素養を学ぶ機会になることが期待される。

●バックグラウンドとなる科目
学部において学んだ工学の各科目

●授業内容
トピックスは前期、後期の授業開始時に紹介される

●教科書
特になし

●参考書
特になし

●評価方法と基準
レポートまたは試験にて評価する（両方とも実施する場合もある）。
評価方法：
100点満点で60点以上が合格。
<平成23年度以降入・進学者>
100～90点：S、 89～80点：A、 79～70点：B、 69～60点：C、 59点以下：F
<平成22年度以前入・進学者>
100～80点：A、 79～70点：B、 69～60点：C、 59点以下：D

●履修条件・注意事項

●質問への対応
時間外の質問は、講義終了後、教室で受け付ける。
それ以外は、事前に担当教員にメールで時間を打ち合わせること
松宮 弘明 (h-matsu@nunse.nagoya-u.ac.jp)
小橋 真 (kobashi@nunse.nagoya-u.ac.jp)

マテリアル工学2 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	基礎科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義及び実験	
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	是津 信行 准教授	棚橋 満 講師

●本講座の目的およびねらい
マテリアル工学1と2では、材料工学の基礎的事柄について、いくつかのトピックスを通して、講義および演習により学ぶ。とくに、学部では材料工学以外の学科で学び、大学院で材料工学を専攻する学生にとって、この授業は、大学院において、材料工学の素養を学ぶ機会になることが期待される。

●バックグラウンドとなる科目
学部において学んだ工学の各科目

●授業内容
【薄膜プロセス】 担当 是津
薄膜材料は、単原子層から数十μmまでの厚さを有する材料の一形態であり、表面保護膜、光学機能膜、磁性膜、エレクトロニクス素子等、様々な分野で広く利用されている。特に、半導体デバイス作製の分野では、薄膜を作製する技術、結晶を作製する技術の両方が必要不可欠で、非常に高度化されたこの二つの技術の上に、現在の情報社会、ひいては我々の生活そのものが成り立っている。
本講義では、薄膜の特殊性や必要性など一般的な特徴を概説する。熱統計力学に基づいた気体分子運動論について復習した後、乾式プロセスを中心に、薄膜作製手法、薄膜材料の諸特性を評価する為の諸手法について講義する。

【微粒子の分散・凝集制御と材料プロセス】 担当 棚橋
微粒子の分散・凝集現象の理解と制御は、材料工学分野、中でもセラミックスや複合材料といった無機系・有機系機能材料の製造プロセスにおいて欠かすことのできないトピックスである。本講義では、DLVO理論をはじめとした微粒子制御技術の基礎学問を中心に学習するとともに、この技術を利用して製造される先端材料の応用例についても紹介する。

●教科書
【薄膜プロセス】
Thin-Film Deposition: Principles and Practice
Donald Smith (著)
出版社: McGraw-Hill Professional; 1版 (1995/3/1)

●参考書

●評価方法と基準
レポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
講義終了時または時間打ち合わせの上対応
担当教員連絡先: 是津 nobu@eco-t.esi.nagoya-u.ac.jp、棚橋 mtana@nunse.nagoya-u.ac.jp

物性物理のすすめ (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	基礎科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義及び実験	
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期1	1年前期	1年前期
開講時期2	2年前期	2年前期
教員	美宅 成樹 教授	田仲 由喜夫 教授

●本講座の目的およびねらい
固体物理からソフトマターにいたる広い意味での物性物理の素養をつける。 \ 1 金属、半導体、絶縁体に関する違いを説明できる。 \ 2 固体中の電子の運動を量子力学に基づいて理解する。 \ 3 相転移における秩序形成の考え方を理解する。 \ 4 相転移の考え方を通じて、液晶、高分子などのソフトマターの現象のおもしろさに触れる。

●バックグラウンドとなる科目
力学 電磁気学 統計力学 量子力学などの物理の基礎知識があると望ましい。

●授業内容
1 量子力学、固体の性質の復習 2 自由電子モデル \ 3 結晶中の電子 \ 4 半導体 \ 5 輸送現象 \ 6 磁性の基礎 \ 7 超伝導の基礎 \ 8 相転移と対称性の破れ \ 9 相転移と臨界現象 \ 10 相転移とゆらぎ \ 11 液晶の話 \ 12 液晶の話 II \ 13 高分子の話 \ 14 高分子の話 II

●教科書
なし

●参考書
物性物理 家泰弘 産業図書

●評価方法と基準
レポートにより評価する。 質問は授業終了後受け付ける。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー・物質工学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	基礎科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義及び演習	
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	各教員 (材料)	各教員 (量?)

●本講座の目的およびねらい
「量子エネルギー工学」を特徴づける「原子力学」、「量子科学」、「エネルギー科学」の三本柱における先端的研究成果とこれを支える基礎技術の広がり、体系的に大学院生に講義することにより、本分野への新たな参画を志す若手研究者の養成を目的とする

●バックグラウンドとなる科目
特になし

●授業内容
三本柱の各分野からそれぞれ一名の教員が3-4回で以下の学問領域に関わる基礎と最先端技術を講義する。 1. 原子力学 \ 2. 量子科学 \ 3. エネルギー科学

●教科書

●参考書
特になし

●評価方法と基準
課題に対するレポートで評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー機能材料工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授

●本講座の目的およびねらい
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学

●授業内容
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. ミクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー機能材料工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授

●本講座の目的およびねらい
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学

●授業内容
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. ミクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー機能材料工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授

●本講座の目的およびねらい
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学

●授業内容
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. ミクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー機能材料工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授

●本講座の目的およびねらい
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。

●バックグラウンドとなる科目
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学

●授業内容
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. ミクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
レポートおよび口述試験

●履修条件・注意事項

●質問への対応

極限環境エネルギー材料科学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一徹 准教授

●本講座の目的およびねらい
量子化学の基礎的教科書を輪読形式で学ぶ

●バックグラウンドとなる科目
すべての物理化学科目

●授業内容
1. エネルギー準位と原子軌道の概念: 2. 化学結合の形成: 3. 状態密度と遷移確率: 4. 実験との関連

●教科書
未定

●参考書

●評価方法と基準
出席とプレゼンテーション
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

極限環境エネルギー材料科学セミナー1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一徹 准教授

●本講座の目的およびねらい
セミナー1Aに続き、固体物理の基礎を輪読形式で学ぶ

●バックグラウンドとなる科目
物理・化学関連科目すべて

●授業内容
1. 逆空間による固体の記述: 2. 回折結晶学: 3. 金属伝導論: 4. 簡単なエネルギーバンド理論: 5. 実験との関連

●教科書
未定

●参考書

●評価方法と基準
出席とプレゼンテーション
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

極限環境エネルギー材料科学セミナー1C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一徹 准教授

●本講座の目的およびねらい
固体物性各論について実際の学術論文を読んで学ぶ

●バックグラウンドとなる科目
これまでの専門科目全部

●授業内容
各学生の研究テーマに沿った関連論文を選定し、それについてまとめ発表を行う。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
出席とプレゼンテーション
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

極限環境エネルギー材料科学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一徹 准教授

●本講座の目的およびねらい
セミナー1Cに続き、更に専門性を深めるための論文読解を行う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
各学生の研究テーマに沿った関連論文を選定し、それについてまとめ発表を行う。更に現在の研究テーマとの関連づけを論じる。

●教科書

●参考書

●評価方法と基準
出席とプレゼンテーション
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

中性子・原子核科学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	瓜谷 章 教授	渡辺 賢一准教授 山崎 淳 助教

●本講座の目的およびねらい

中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

原子核物理学、原子物理学、量子力学

●授業内容

1. 原子核・中性子の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用

●教科書

輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。

●参考書

必要に応じて紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

成績評価基準は以下の通りである。

〈平成23年度以降入・進学者〉
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
〈平成22年度以前入・進学者〉
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問への対応: セミナー時に対応する。

中性子・原子核科学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	瓜谷 章 教授	渡辺 賢一准教授 山崎 淳 助教

●本講座の目的およびねらい

中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

原子核物理学、原子物理学、量子力学

●授業内容

1. 原子核・中性子の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用

●教科書

輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。

●参考書

必要に応じて紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

成績評価基準は以下の通りである。

〈平成23年度以降入・進学者〉
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
〈平成22年度以前入・進学者〉
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問への対応: セミナー時に対応する。

中性子・原子核科学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	瓜谷 章 教授	渡辺 賢一准教授 山崎 淳 助教

●本講座の目的およびねらい

中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

原子核物理学、原子物理学、量子力学

●授業内容

1. 原子核・中性子の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用

●教科書

輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。

●参考書

必要に応じて紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

成績評価基準は以下の通りである。

〈平成23年度以降入・進学者〉
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
〈平成22年度以前入・進学者〉
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問への対応: セミナー時に対応する。

中性子・原子核科学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	瓜谷 章 教授	渡辺 賢一准教授 山崎 淳 助教

●本講座の目的およびねらい

中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

原子核物理学、原子物理学、量子力学

●授業内容

1. 原子核・中性子の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用

●教科書

輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。

●参考書

必要に応じて紹介する。

●評価方法と基準

セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。

成績評価基準は以下の通りである。

〈平成23年度以降入・進学者〉
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
〈平成22年度以前入・進学者〉
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

質問への対応: セミナー時に対応する。

エネルギー量子制御工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教	
●本講座の目的およびねらい		
原子核物理学及びエネルギー量子制御工学の原著論文を輪読し、研究の現状を学ぶと同時に、研究の進め方、まとめ方について習得する。達成目標は以下の通り。 ・原子核物理学およびエネルギー量子制御工学の広い分野において、基礎的事項を理解し、説明できる。 ・原子核物理学およびエネルギー量子制御工学の特定の分野について、これまでの研究の問題点を指摘し、それを解決するための方法論を提示できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
原子核物理学、数学2及び演習、計算機プログラミング		
●授業内容		
1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析		
●教科書		
教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。		
●参考書		
なし		
●評価方法と基準		
セミナーにおける発表(50%)とそれに伴う口頭試問(30%)および他者の発表に対する質疑(20%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応 随時		

エネルギー量子制御工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教	
●本講座の目的およびねらい		
原子核物理学及びエネルギー量子制御工学の原著論文を輪読し、研究の現状を学ぶと同時に、研究の進め方、まとめ方について習得する。達成目標は以下の通り。 ・原子核物理学およびエネルギー量子制御工学の広い分野において、基礎的事項を理解し、説明できる。 ・原子核物理学およびエネルギー量子制御工学の特定の分野について、これまでの研究の問題点を指摘し、それを解決するための方法論を提示できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
原子核物理学、数学2及び演習、計算機プログラミング		
●授業内容		
1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析		
●教科書		
教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。		
●参考書		
なし		
●評価方法と基準		
セミナーにおける発表(50%)とそれに伴う口頭試問(30%)および他者の発表に対する質疑(20%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応 随時		

エネルギー量子制御工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教	
●本講座の目的およびねらい		
原子核物理学及びエネルギー量子制御工学の原著論文を輪読し、研究の現状を学ぶと同時に、研究の進め方、まとめ方について習得する。		
●バックグラウンドとなる科目		
原子核物理学、数学2及び演習、計算機プログラミング		
●授業内容		
1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析		
●教科書		
教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。		
●参考書		
なし		
●評価方法と基準		
セミナーにおける発表(50%)とそれに伴う口頭試問(30%)および他者の発表に対する質疑(20%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応 随時		

エネルギー量子制御工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教	
●本講座の目的およびねらい		
原子核物理学及びエネルギー量子制御工学の原著論文を輪読し、研究の現状を学ぶと同時に、研究の進め方、まとめ方について習得する。達成目標は以下の通り。 ・原子核物理学およびエネルギー量子制御工学の広い分野において、基礎的事項を理解し、説明できる。 ・原子核物理学およびエネルギー量子制御工学の特定の分野について、これまでの研究の問題点を指摘し、それを解決するための方法論を提示できる。		
●バックグラウンドとなる科目		
原子核物理学、数学2及び演習、計算機プログラミング		
●授業内容		
1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析		
●教科書		
教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。		
●参考書		
なし		
●評価方法と基準		
セミナーにおける発表(50%)とそれに伴う口頭試問(30%)および他者の発表に対する質疑(20%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
●履修条件・注意事項		
●質問への対応 随時		

先端的エネルギー源材料セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先端的エネルギー実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表（70%）とそれに対する質疑応答（30%）により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>		

先端的エネルギー源材料セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先端的エネルギー実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書 輪読する教科書・論文については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表（70%）とそれに対する質疑応答（30%）により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>		

先端的エネルギー源材料セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先端的エネルギー実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表（70%）とそれに対する質疑応答（30%）により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>		

先端的エネルギー源材料セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教	
<p>●本講座の目的およびねらい 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先端的エネルギー実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表（70%）とそれに対する質疑応答（30%）により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する。</p>		

エネルギー材料プロセスセミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	榎田 洋一 教授	澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士前期課程で必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案、2. エネルギー材料プロセスの理論解析、3. エネルギー材料プロセスの実験解析、4. 口頭による研究成果発表、5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

エネルギー材料プロセスセミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年後期	
教員	榎田 洋一 教授	澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士前期課程で必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案、2. エネルギー材料プロセスの理論解析、3. エネルギー材料プロセスの実験解析、4. 口頭による研究成果発表、5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

エネルギー材料プロセスセミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	榎田 洋一 教授	澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士前期課程で必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案、2. エネルギー材料プロセスの理論解析、3. エネルギー材料プロセスの実験解析、4. 口頭による研究成果発表、5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

エネルギー材料プロセスセミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年後期	
教員	榎田 洋一 教授	澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士前期課程で必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案、2. エネルギー材料プロセスの理論解析、3. エネルギー材料プロセスの実験解析、4. 口頭による研究成果発表、5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

熱エネルギーシステム工学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー1C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー環境工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	山澤 弘実 教授	森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
放射線防護、環境放射能・放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。達成目標
1. 環境放射能・放射線、放射線防護、物質環境動態の何れかに関する研究方法を理解し、教員の指導下で研究を実施できる。2. 地球環境問題、エネルギー環境安全の基盤となる学問を理解し、典型的な事例について論理的に説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
1. 放射線防護 2. 環境放射能・放射線 3. エネルギー使用と環境安全 4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
<平成23年度以降入・進学者>
100～90点：S、 89～80点：A、 79～70点：B、 69～60点：C、 59点以下：F
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
教員	山澤 弘実 教授	森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
放射線防護、環境放射能・放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。達成目標
1. 環境放射能・放射線、放射線防護、物質環境動態の何れかに関する研究方法を理解し、教員の指導下で研究を実施できる。2. 地球環境問題、エネルギー環境安全の基盤となる学問を理解し、典型的な事例について論理的に説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
1. 放射線防護; 2. 環境放射能・放射線; 3. エネルギー使用と環境安全; 4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
<平成23年度以降入・進学者>
100～90点：S、 89～80点：A、 79～70点：B、 69～60点：C、 59点以下：F
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	2年前期	2年前期
教員	山澤 弘実 教授	森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
放射線防護、環境放射能・放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。達成目標
1. 環境放射能・放射線、放射線防護、物質環境動態の何れかに関する研究方法を理解し、教員の指導下で主体的に研究を実施できる。2. 地球環境問題、エネルギー環境安全の基盤となる学問を理解し、複合的な事例について論理的に説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
1. 放射線防護 2. 環境放射能・放射線 3. エネルギー使用と環境安全 4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

エネルギー環境工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	2年後期	2年後期
教員	山澤 弘実 教授	森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
放射線防護、環境放射能・放射線及びエネルギー利用に伴う地球環境問題に関連する文献を輪読し、研究に対する取り組み方、進め方、まとめ方、研究方法などについて修得する。達成目標
1. 環境放射能・放射線、放射線防護、物質環境動態の何れかに関する研究方法を理解し、教員の指導下で主体的に研究を実施できる。2. 地球環境問題、エネルギー環境安全の基盤となる学問を理解し、複合的な事例について論理的に説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
1. 放射線防護 2. 環境放射能・放射線 3. エネルギー使用と環境安全 4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
セミナー時に対応する。

エネルギー材料デバイス工学セミナー1A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	山崎 耕造 教授 庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 応用数学, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中で発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー1B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	山崎 耕造 教授 庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 応用数学, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中で発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー1C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 応用数学, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中で発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー1D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目 主分野科目
課程区分	前期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 応用数学, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中で発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

量子ビーム物性工学セミナー1A (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	曾田 一雄 教授	加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性</p> <p>●授業内容 1. 反磁性と常磁性 2. 交換相互作用 3. 自由電子の交換相互作用 4. バンド強磁性 \ 5. 強磁性体の磁気転移 \ 6. 局在電子の強磁性結合 \ 7. 反強磁性 \ 8. スピン波 \ 9. バンド電子の運動と正孔 \ 10. バンド内の電子散乱 \ 11. ボルツマン方程式 \ 12. 金属の電気伝導度 \ 13. 熱電効果 \ 14. ヴァーデマン・フランツ則 \ 15. 局 在電子の伝導</p> <p>●教科書 H. Ibach and H. Luth, Solid State Physics (3rd edition), (Springer-Verlag, Tokyo 2003)</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(60%)と質疑応答(40%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>		

量子ビーム物性工学セミナー1B (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
教員	曾田 一雄 教授	加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。:達成目標:物質の原子配列と電子構造に基づいて固体とその表面・界面の特性を理解し、説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性</p> <p>●授業内容 1. 超伝導:2. ロンドン方程式:3. クーパー対とBCS基底状態:4. BCS理論:5. マイスナー効果:6. 磁束の量子化:7. 高温超伝導体:8. 誘電関数:9. 電磁波の吸収と反射:10. 誘電関数の振動子モデル:11. 局所場:12. 自由電子の応答、帯間遷移、励起子:13. 半導体の電荷担体密度:14. 半導体の電気伝導度:15. 演習</p> <p>●教科書 H. Ibach and H. Luth, Solid State Physics (3rd edition), (Springer-Verlag, Tokyo 2003)</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(60%)と質疑応答(40%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>		

量子ビーム物性工学セミナー1C (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	2年前期	2年前期
教員	曾田 一雄 教授	加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性</p> <p>●授業内容 1. 表面と界面の物理:定義と重要性:2. 超高真空技術:3. 表面、界面、薄膜の作製:4. 分子線エビタシー:5. 表面エネルギーと巨視的形態:6. 緩和、再構成、欠陥:7. 表面2次元格子、超格子構造、逆格子:8. 固体-固体界面の構造モデル:9. 薄膜の成長様式:10. 核形成:11. 物理吸着:12. 化学吸着:13. 吸着層の相転移:14. 吸着反応:15. 演習</p> <p>●教科書 H. Luth, Solid Surfaces, Interfaces and Thin Films(4th edition), (Springer, Tokyo 2001)</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(60%)と質疑応答(40%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>		

量子ビーム物性工学セミナー1D (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	2年後期	2年後期
教員	曾田 一雄 教授	加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 固体とその表面・界面の物性を評価・制御するのに必要な材料の種々の特性を物質の原子配列と電子構造に基づいて理解する。研究に必要な基礎学力を輪講形式で習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、材料物性学、半導体物性</p> <p>●授業内容 1. 表面格子振動:2. レイリー波:3. 表面フォノンポラリトン:4. 分散関係:5. 1次元自由電子モデルでの表面状態:6. 3次元結晶の表面状態:7. 光電子分光の一般論:8. ハルク状態と表面状態からの光電子放出:9. 光電子放出の多体効果:10. 金属の表面バンド構造:11. 非占有表面電子状態とイメージポテンシャル状態:12. 半導体の表面状態:13. 化合物半導体の表面状態:14. 光電子分光と逆光電子分光:15. 演習</p> <p>●教科書 H. Luth, Solid Surfaces, Interfaces and Thin Films(4th edition), (Springer, Tokyo 2001)</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(60%)と質疑応答(40%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 輪講時に対応する</p>		

量子ビーム計測工学セミナー1A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年前期	
教員	井口 哲夫 教授	河原林 順 准教授 富田 英生 准教授

●本講座の目的およびねらい
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を輪読・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。

達成目標
1. 量子ビーム計測技術全般に関して、基本的事項を理解し、説明できる。
2. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学

●授業内容
1. 量子ビーム物理シミュレーション 2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス \ 3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス \ 4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス

●教科書
輪読する教科書：' Radiation Detection and Measurement 4th Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2010) また、セミナーの進行に合わせて、レビュー的な関連学術論文を適宜選定する。

●参考書
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など

●評価方法と基準
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
特になし。
ただし、担当箇所については、事前に十分予習をしておくこと。

●質問への対応
セミナー時に対応する。

量子ビーム計測工学セミナー1B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年後期	
教員	井口 哲夫 教授	河原林 順 准教授 富田 英生 准教授

●本講座の目的およびねらい
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を輪読・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解する。

達成目標
1. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できる。
2. 最近の量子ビーム計測に関連した技術課題を見つけることができる。

●バックグラウンドとなる科目
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学

●授業内容
1. 量子ビーム物理シミュレーション
2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス
3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス
4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス

●教科書
輪読する教科書：' Radiation Detection and Measurement 4th Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2010) また、セミナーの進行に合わせて関連学術論文を適宜選定する。

●参考書
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など

●評価方法と基準
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
特になし。
ただし、担当箇所については、事前に十分予習をしておくこと。

●質問への対応
セミナー時に対応する。

量子ビーム計測工学セミナー1C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	2年前期	2年前期
教員	井口 哲夫 教授	河原林 順 准教授 富田 英生 准教授

●本講座の目的およびねらい
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を輪読・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標
1. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できるとともに、内容について議論できる。
2. 最近の量子ビーム計測に関連した技術課題の対処法について考察できる。

●バックグラウンドとなる科目
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学

●授業内容
1. 量子ビーム物理シミュレーション
2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス
3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス
4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス

●教科書
輪読する教科書：' Radiation Detection and Measurement 4th Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2010) また、セミナーの進行に合わせて関連学術論文を適宜選定する。

●参考書
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など

●評価方法と基準
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
特になし。
ただし、担当箇所については、事前に十分予習をしておくこと。

●質問への対応
セミナー時に対応する。

量子ビーム計測工学セミナー1D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	セミナー	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	2年後期	2年後期
教員	井口 哲夫 教授	河原林 順 准教授 富田 英生 准教授

●本講座の目的およびねらい
量子ビーム計測学に関連する英文教科書および学術文献を輪読・発表し、量子ビーム物理、量子ビーム検出器、量子ビーム信号処理、量子ビーム計測応用の最新知識および研究手法を習得するとともに、関連分野の研究動向について理解を深める。

達成目標
1. 最近の量子ビーム計測技術に関して、その原理・特徴を理解し、説明できるとともに、内容について議論できる。
2. 最近の量子ビーム計測に関連した技術課題の対処法について提案できる。

●バックグラウンドとなる科目
電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学

●授業内容
1. 量子ビーム物理シミュレーション
2. 量子ビーム検出器技術の最新トピックス
3. 量子ビーム計測信号処理技術の最新トピックス
4. 量子ビーム計測応用技術の最新トピックス

●教科書
輪読する教科書：' Radiation Detection and Measurement 4th Version' G.F.Knoll, John Wiley& Sons, Inc. New York(2010) また、セミナーの進行に合わせて関連学術論文を適宜選定する。

●参考書
量子ビーム計測技術の研究開発に関連した学術雑誌、例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum など

●評価方法と基準
セミナーにおけるレポート資料、口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
特になし。
ただし、担当箇所については、事前に十分予習をしておくこと。

●質問への対応
セミナー時に対応する。

エネルギー機能材料工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	2年前期	
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授

- 本講座の目的およびねらい
エネルギー機能材料の電子物性、結晶構造等について講述する。また、量子ビーム（電子線、イオンビーム、X線、放射光）等を用いた物性評価手法についての基礎知識を習得する。
- バックグラウンドとなる科目
物性物理学、電子物性、熱力学、統計熱力学、量子力学
- 授業内容
・特論のスケジュールおよび内容（シラバス）説明
・イオン・固体相互作用
・表面・界面のイオンビーム解析および演習
・表面・界面薄膜物性
・超高真空技術
・表面分析法概論（LEED、AES、XPS、STM等）
・エネルギー機能材料としての誘電体（誘電性、圧電性、焦電性、強誘電性）
・誘電特性評価法入門
・圧電材料の基礎と応用
・焦電材料の基礎と応用
・強誘電材料の基礎と応用
・薄膜デバイス概論
・薄膜合成法概論
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

先進的エネルギー源材料特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
教員	長崎 正雅 教授	松波 紀明 准教授

- 本講座の目的およびねらい
先進的エネルギー源実現の鍵を握る種々の機能材料について、その物理化学的性質(機能)およびそれらを明らかにするための手法を解説する。
- バックグラウンドとなる科目
物性物理学、量子力学、粒子線（放射線）物理学
- 授業内容
1) 先進的エネルギー源材料の物理化学的性質（機能）
2) 量子ビームを利用した材料分析
3) 量子ビームを利用した材料創製
- 教科書
特に定めない、必要に応じてプリントを配布する。
- 参考書
講義で適宜紹介する。
- 評価方法と基準
レポートを2回（各50%）課す。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義終了時に対応する。

エネルギー材料化学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
開講時期2	2年前期	
教員	吉田 朋子 准教授	

- 本講座の目的およびねらい
材料の性質、特に固体機能を理解するためのキャラクタリゼーションとして現在様々な分光法が用いられている。本講義では、個々の分光装置そのものの使い方や原理を理解すると共に、各キャラクタリゼーションの手段・手法がどのような材料に適用できるか、またそのアウトプットを広い視野で、どのように解析することができるかを、最新の研究データを基に具体的に説明する。
- バックグラウンドとなる科目
基礎化学、物理化学、量子力学、量子化学、化学分析学
- 授業内容
1. X線回折法 2. X線光電子分光法 \ 3. X線吸収法 (XAFS) \ 4. 紫外可視吸収・発光分光法 \ 5. 赤外吸収分光法 \ 6. Raman分光法 \ 7. ESR \ 8. 期末試験、課題レポート
- 教科書
内容構成は主に次のテキストに従う。毎回プリントを配布する。プリントないしはテキストの予習・復習を十分におこなうこと。固体表面キャラクタリゼーションの実際：田中裕裕・山下弘己 変（講談社サイエンティフィック）
- 参考書
固体表面分析1,11：大西孝治・堀池靖浩・吉原一統 編（講談社）一般的な物理化学の教科書
- 評価方法と基準
達成目標に対する評価の重みは同等である。期末試験60%、課題レポートを40%で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

高エネルギー電子分光特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー工学専攻 量子工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	1年後期	1年後期
教員	武藤 俊介 教授	巽 一哉 准教授

- 本講座の目的およびねらい
高エネルギー電子を用いる電子分光法の基礎を学ぶ。特に最近の走査型透過電子顕微鏡（STEM）を用いたナノ分光の測定技術、可視化についても言及する。
- バックグラウンドとなる科目
学部におけるすべての数学及び物理系科目
- 授業内容
1. 電子と固体の相互作用；2. 様々な電子分光法；3. フェルミの黄金律；4. 電子エネルギー損失分光法の実験；5. X線蛍光分析法；6. 統計的データ処理法の基礎とマッピング技術
- 教科書
R.F. Egerton, Electron Energy-Loss Spectroscopy in the Electron Microscope, Plenum
- 参考書
J.M. Cowley, Diffraction Physics, North-Holland
- 評価方法と基準
出席とレポートにより、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

中性子・原子核科学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	瓜谷 章 教授	渡辺 賢一 准教授

- 本講座の目的およびねらい
中性子と物質の相互作用、原子核の基本的性質や放射線、原子核の崩壊を学習し、原子核の構造や核反応を理解する。これを基に中性子・原子核分野の応用、エネルギーとの関係を理解し、学ぶ。また、これらに関連したレーザー計測、質量分析技術についても学ぶ。
- バックグラウンドとなる科目
量子力学、原子物理学、放射線計測学、
- 授業内容
1、原子核の基本的性質、2、放射能、3、原子核の崩壊4、放射線と物質との相互作用、5、原子核の構造、6、核反応、7、放射線検出器、8、加速器、9、核分光 10、中性子と物質の相互作用 11、中性子計測法 12、放射線・中性子利用技術 13、核変換生成物検出 14、レーザー計測 15、質量分析法
- 教科書
必要に応じて講義資料を配付する。
- 参考書
原子核物理 (影山誠三郎; 朝倉書店) 原子核物理学 (八木浩輔; 朝倉書店) \ など
- 評価方法と基準
レポート (70%) とテスト (30%) を行い、目標達成度を評価する。
成績評価基準は以下の通りである。
〈平成23年度以降入・進学者〉
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F
〈平成22年度以前入・進学者〉
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
質問への対応: 講義時に対応する。

エネルギー科学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
教員	山崎 耕造 教授	

- 本講座の目的およびねらい
エネルギー問題の基礎を概観し、各種エネルギーの現状と将来を理解する。特に、各種エネルギー形態の数値的な記述を理解し、幅広い視点から自分の専門分野の研究を見つめなおす契機とする。
- 達成目標
1. エネルギー科学の諸課題を理解し、説明できる。
2. 各種エネルギー形態の記述を理解し、説明できる。
3. 未来エネルギーの展望を理解し、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
力学、電磁気学、プラズマ理工学
- 授業内容
1. エネルギーの基礎
2. エネルギーと環境
3. エネルギー資源
4. 各種エネルギー形態とエネルギー変換
5. 力学エネルギー
6. 熱エネルギー
7. 電磁エネルギー
8. 光量子エネルギー
9. 化学エネルギー
10. 核エネルギー
11. エネルギー有効利用
12. 未来エネルギー
- 教科書
教科書はとくに指定しない。授業中に補足資料を配付する。また、毎回授業の最後に簡単な小レポート課題を提示するので、次回の授業時までに提出し、理解を深めること。
- 参考書
エネルギーと環境 山崎耕造著 共立出版
トコトンやさしいエネルギーの本 山崎耕造著 日刊工業新聞社
エネルギー工学入門 宮本健郎 培風館
エネルギー・資源ハンドブック エネルギー・資源学会編 オーム社
- 評価方法と基準
毎回の小レポートで評価し、合計100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

エネルギー量子制御工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	山本 章夫 教授	

- 本講座の目的およびねらい
動力炉の炉心設計に使用されている最新の核計算手法を系統的に講義する。達成目標は以下の通りである。
・炉心設計に用いられている最新の核計算手法を理解する。
- バックグラウンドとなる科目
原子核物理学、計算機プログラミング
- 授業内容
・中性子輸送理論(衝突確率・MOC)
・減速計算
・共鳴計算
・均質化と近代ノード法
・断面積ライブラリとその処理
・燃焼計算の数値解法
・空間依存動特性とその応用
・燃料運用と装荷パターン最適化
- 教科書
資料は講義時に配布
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
レポートにて評価する。100点満点で60点で合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義の後、もしくはe-mailにて随時受け付ける

核融合炉システム工学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
教員	山崎 耕造 教授	杉山 貴彦 准教授

- 本講座の目的およびねらい
エネルギー問題の中での核融合炉システム開発を理解し、ブランケット、超伝導コイル、炉材料等の核融合炉工学コンポーネントについて学び、現状と問題点、将来の展望について学ぶ。
- 達成目標
1. 核融合炉の原理を理解し、説明できる。
2. 核融合炉工学の記述を理解し、説明できる。
3. 核融合炉工学の各コンポーネントの記述を理解し、説明できる。
- バックグラウンドとなる科目
力学、電磁気学、原子燃料サイクル、同位体分離、プラズマ理工学
- 授業内容
1. 序論 2. 核融合炉の原理 \ 3. 炉心工学 \ 4. プラズマ・壁相互作用 \ 5. ブランケット工学・トリチウム工学 \ 6. 超伝導コイル工学 \ 7. 炉材料工学・中性子工学 \ 8. 炉システム工学 \ 9. 炉開発計画 \ 10. 将来展望
- 教科書
教科書はとくに指定しない。授業中に補足資料を配付する。また、毎回授業の最後に簡単な小レポート課題を提示するので、次回の授業時までに提出し、理解を深めること。
- 参考書
核融合研究I (核融合プラズマ) 名古屋大学出版会、核融合研究II (核融合炉工学) 名古屋大学出版会、T.Dolan: Fusion Research, Pergamon Press 2000
- 評価方法と基準
小レポート (40%)、期末レポート (60%) で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
特になし。ただし、毎回の講義後、講義資料をもとに、十分に復習することが望まれる。
- 質問への対応
担当教員: 山崎耕造, 内線4593, yanazaki@ees.nagoya-u.ac.jp, \ 杉山貴彦, 内線3786, t-sugiyana@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー材料プロセス工学 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1	1年前期	
開講時期2	2年前期	
教員	榎田 洋一教授	澤田 佳代 准教授

●本講座の目的およびねらい
エネルギー材料の処理のための現行および先進のプロセスシステムを解析および設計する最新の知識を習得する。

●バックグラウンドとなる科目
原子力燃料サイクル工学

●授業内容

1. 原子燃料サイクル, 2. 燃料サイクルのプロセス・システム (資源循環の技術と効果のモデル化), 3. 燃料サイクルのプロセス解析, 4. 燃料サイクルの経済性, 5. 放射性廃棄物処分, 6. 先進的再処理方法, 7. リスク・コミュニケーション

●教科書

教科書はR. G. Cockran et al., The Nuclear Fuel Cycle: Analysis and Management, American Nuclear Society (1999)を使用します。

●参考書

1) P. D. Wilson, The Nuclear Fuel Cycle from Ore to Waste, Oxford University Press (1996).:2) M. Benedict et al., Nuclear Chemical Engineering, McGraw-Hill (1982).:3) 関連する最近の学術雑誌論文

●評価方法と基準

期末試験, レポートおよび演習

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー熱流体工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	辻 義之教授	伊藤高啓 准教授

●本講座の目的およびねらい
エネルギーを生成したり、輸送する過程について広く考える。特に、熱・流体運動の基礎的な知識や技術が、省エネルギーという観点からどのように応用され、実用化されているのかについて考える。キーワードは「流体力学」と「エネルギー」。

1. 工業製品や実用化に見る具体例
2. 省エネ対策、エネルギー政策
3. 化石エネルギー
4. 新エネルギー (風車・燃料電池)
5. プラズマ、原子炉
5. 廃棄物処理
6. 地球温暖化対策と役割
7. 大気気候変動モデル

●バックグラウンドとなる科目

流体力学, 熱力学, 統計力学, 移動現象論, 数値解析

●授業内容

熱流体工学の知識がよ応用される事例について、基礎的な観点からの理解を深める

- 流体の基礎方程式
 - 流体乱流の普遍法則
 - 流体乱流の統計的取り扱い
- について学び、下記の項目についての応用例を考察する。

1. 工業製品や実用化に見る具体例
2. 省エネ対策、エネルギー政策
3. 化石エネルギー
4. 新エネルギー (風車・燃料電池)
5. プラズマ、原子炉
5. 廃棄物処理
6. 地球温暖化対策と役割
7. 大気気候変動モデル

●教科書

なし

●参考書

講義の際に指定する

●評価方法と基準

試験及びレポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー環境安全工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	山澤 弘実教授	森泉 純 准教授

●本講座の目的およびねらい
原子力を含めたエネルギー利用に伴う地球規模から地域規模での環境問題、環境放射能・放射線の特性、ならびに放射線の健康影響に関する安全評価について講述し、エネルギー利用と環境・人間の関わりを理解するとともに問題解決能力を養う。:達成目標:1. エネルギー利用に伴う環境問題を理解し、説明できる。:2. 環境放射能・放射線の特性を理解し、被曝評価できる。:3. 原子力災害に対する基本を説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

放射線計測学、保健物理学、移動現象論

●授業内容

1. エネルギー利用と地球環境問題: 2. 環境放射能・放射線: 3. 放射線被曝評価の基礎: 4. 原子力事故と原子力防災の考え方

●教科書

テキストは特にならない。プリントを毎週配布する。プリントの復習を十分に行うこと。

●参考書

なし

●評価方法と基準

達成目標に対する評価の重みは同等である。:課題レポートで評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

<平成23年度以降入学者>
100~90点: S, 89~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: F

<平成22年度以前入学者>
100~80点: A, 79~70点: B, 69~60点: C, 59点以下: D

●履修条件・注意事項

●質問への対応

講義終了時に対応する。:担当教員連絡先:内線 3781 yanazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子ビーム物性工学特論 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年前期	1年前期
開講時期2	2年前期	2年前期
教員	曾田 一雄 教授	

●本講座の目的およびねらい
放射光・イオンなど高エネルギー量子ビームが材料に与える作用の基礎過程とその効果の基礎概念、および、量子ビームを用いた材料の表面・界面およびナノ構造の分析に対する基礎を習得する。 達成目標:量子ビームと物質との相互作用と量子ビーム分析の基礎を理解し、説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

材料物性学、放射線物性学、粒子線材料学、表面物性学

●授業内容

1. 放射光とその特徴
2. 光と物質との相互作用 I: 光学遷移
2. 光と物質との相互作用 II: 光学定数
4. 赤外分光
5. 真空紫外線・X線吸収分光
6. 磁気円二色性分光
7. 軟X線発光分光
8. 光電子分光と逆光電子分光
9. 角度分解光電子分光

●教科書

講義資料を配布する

●参考書

小間藤・八木克道・塚田捷・青野正和編著「表面化学入門」(丸善) 太田俊明編「X線吸収分光法-XAFSとその応用」(I P C出版部)

●評価方法と基準

レポートにより、評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

●質問への対応

授業終了時に対応する
担当教員連絡先:内線4683 k-soda@nucl.nagoya-u.ac.jp

量子ビーム計測学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	井口 哲夫 教授	河原林 順 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム工学で用いられる各種検出器の動作原理及び性能に関わる基礎物理の理解を深めるとともに、最近の量子ビーム計測システムの構成技術を、計測応用例とともに解説する。</p> <p>達成目標 1. 量子ビーム検出器の物理、動作原理、基本性能の関連性を深く理解・説明できる。 2. 最近の量子ビーム計測システムの構成技術を理解・説明できる。 3. 最近の量子ビーム計測応用に関して知識を広め、その原理や特徴を理解・説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 1. 量子ビーム検出器開発の歴史と動向 2. 量子ビーム計測物理補遺 3. 気体電離検出器 (ガス増幅技術、電荷担体の位置検出原理等) 4. 固体電離検出器 (常温半導体検出器、極低温検出器等) 5. 液体電離検出器 (希ガス液体/常温液体電離箱等) 6. 発光型検出器 (新素材シンチレータ、光電変換の要素技術等) 7. 最新計測システムの構成技術 (微細加工利用、光ファイバーセンシング、多重デジタル波形信号処理等) 8. 最近の量子ビーム計測応用 (工業利用、医療診断、分析技術等)</p> <p>●教科書 教科書は特に指定しないが、下記参考書をもとにした講義資料を適宜配布する。:講義の区切りごとに中間レポートを4回与えるので、講義資料をもとに十分復習を行うこと。</p> <p>●参考書 量子ビーム計測技術関連の学術雑誌 (例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum., J. Appl. Phys. など) からのレビュー的論文</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。 4回の中間レポートに対し、各々25%で目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。 評価方法: 〈平成23年度以降入・進学者〉 S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下 〈平成22年度以前入・進学者〉 A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。 ただし、毎回の講義後、講義資料をもとに、十分に復習することが望まれる。</p> <p>●質問への対応 時間外の質問は、講義終了後、教室で受け付ける。</p> <p>それ以外は、事前に担当教員に電話がメールで時間を打ち合わせること</p>		

量子ビーム計測学特論 (2.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	量子工学専攻
開講時期1	1年後期	1年後期
開講時期2	2年後期	2年後期
教員	井口 哲夫 教授	河原林 順 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム工学で用いられる各種検出器の動作原理及び性能に関わる基礎物理の理解を深めるとともに、最近の量子ビーム計測システムの構成技術を、計測応用例とともに解説する。</p> <p>達成目標 1. 量子ビーム検出器の物理、動作原理、基本性能の関連性を深く理解・説明できる。 2. 最近の量子ビーム計測システムの構成技術を理解・説明できる。 3. 最近の量子ビーム計測応用に関して知識を広め、その原理や特徴を理解・説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 1. 量子ビーム検出器開発の歴史と動向 2. 量子ビーム計測物理補遺 3. 気体電離検出器 (ガス増幅技術、電荷担体の位置検出原理等) 4. 固体電離検出器 (常温半導体検出器、極低温検出器等) 5. 液体電離検出器 (希ガス液体/常温液体電離箱等) 6. 発光型検出器 (新素材シンチレータ、光電変換の要素技術等) 7. 最新計測システムの構成技術 (微細加工利用、光ファイバーセンシング、多重デジタル波形信号処理等) 8. 最近の量子ビーム計測応用 (工業利用、医療診断、分析技術等)</p> <p>●教科書 教科書は特に指定しないが、下記参考書をもとにした講義資料を適宜配布する。:講義の区切りごとに中間レポートを4回与えるので、講義資料をもとに十分復習を行うこと。</p> <p>●参考書 量子ビーム計測技術関連の学術雑誌 (例えば、IEEE Trans. Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum., J. Appl. Phys. など) からのレビュー的論文</p> <p>●評価方法と基準 達成目標に対する評価の重みは同等である。 4回の中間レポートに対し、各々25%で目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。 評価方法: 〈平成23年度以降入・進学者〉 S: 100-90点、A: 89-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、F: 59点以下 〈平成22年度以前入・進学者〉 A: 100-80点、B: 79-70点、C: 69-60点、D: 59点以下</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。 ただし、毎回の講義後、講義資料をもとに、十分に復習することが望まれる。</p> <p>●質問への対応 時間外の質問は、講義終了後、教室で受け付ける。</p> <p>それ以外は、事前に担当教員に電話がメールで時間を打ち合わせること</p>		

量子エネルギー工学特別講義 I (1.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1		
教員	非常勤講師 (量1)	
<p>●本講座の目的およびねらい 量子エネルギー工学に関する最新の話題について学外の専門家による講義または講演を通して、最先端の幅広い知識に接する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 量子エネルギー工学に関する最新の話題に関する講義または講演</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

量子エネルギー工学特別講義 II (1.0単位)		
科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期1		
教員	非常勤講師 (量1)	
<p>●本講座の目的およびねらい 量子エネルギー工学に関する最新の話題について学外の専門家による講義または講演を通して最先端の幅広い知識に接する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容 量子エネルギー工学に関する最新の話題に関する講義又は講演</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>		

量子エネルギー工学特別実験及び演習 A (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	実験及び演習	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期 1	1 年前期	
教員	各教員 (量I)	

- 本講座の目的およびねらい
院生各自の研究課題を通して、量子エネルギー工学に関連した最先端の研究について、実験技術や解析技術を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
実験あるいは演習
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートあるいは口頭発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

量子エネルギー工学特別実験及び演習 B (1.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	実験及び演習	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期 1	1 年後期	
教員	各教員 (量I)	

- 本講座の目的およびねらい
院生各自の研究課題を通して、量子エネルギー工学に関連した最先端の研究について、実験技術、解析技術を修得する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
実験あるいは演習
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
レポートあるいは口頭発表
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

原子炉実験 (2.0単位)

科目区分	主専攻科目	主分野科目
課程区分	前期課程	
授業形態	講義	
対象履修コース	量子エネルギー工学分野	
開講時期 1	1 年前期	
教員	山本 章夫 教授	

- 本講座の目的およびねらい
臨界集合体装置（低出力・小型の原子炉）を用いた原子炉の基礎実験を通して、原子炉実験の基本的な測定法を学ぶと同時に、臨界現象を体得する。北大、東北大、東工大、福井大、京大、阪大、神戸大、九大との合同実験により、院生の交流による視野の拡大の効果もねらう。達成目標は以下の通りである。
・原子炉実験の基礎的な測定法を習得する
・原子炉の操作と臨界状態の体験
・実験結果のとりまとめ方法とそのための議論の実施
- バックグラウンドとなる科目
原子炉物理学
- 授業内容
1. 臨界近接
2. 制御棒校正
3. 中性子束分布測定
4. 運転実習
- 教科書
大学院実験テキスト（受講者に配布）
- 参考書
原子炉の初等理論（下）：ラマーシュ（吉岡書店）
- 評価方法と基準
事前レポートを30%、実験レポート（1週間の実験の最終日に提出）を70%の割合で総合点を評価する。100点満点のうち60点で合格。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
随時

科学技術表現論 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目		
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期 1	1 年前期	1 年前期	1 年前期
開講時期 2	2 年前期	2 年前期	2 年前期
教員	各教員 (材料)	各教員 (応用物理)	各教員 (量I)

- 本講座の目的およびねらい
研究発表および研究に関する議論を行うために必要な事柄を学ぶ。工学の世界では、英語が事実上の共通言語であるため、とくに、英語による研究発表の準備、よい口頭発表のやり方、討論の実際を中心に学び、それらのスキルを身につける。
- バックグラウンドとなる科目
学部・大学院において学ぶ工学の各科目、および英語その他の言語科目
- 授業内容
1. プレゼンテーションの企画 2. 効果的な導入部、本論の提示法、および、結論の効果的な導き出し方 \ 3. 視聴覚資料の作成法 \ 4. 効果的なディスカッションの進め方
- 教科書
講義資料は講師が作成・配付する
- 参考書
- 評価方法と基準
英語による口頭発表、英語によるレポート
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

高度総合工学創造実験 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験及び演習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
異なる専門分野からなる数人のチームを編制し、企業からの非常勤講師(Directing Professor)の下に自主的研究を行う。

- その目的およびねらいは、
1. 異種集団グループダイナミクスによる創造性の活性化、
 2. 異種集団グループダイナミクスならではの発明、発見体験、
 3. 自己専門の可能性と限界の認識、
 4. 自らの能力で知識を総合化することである。

●バックグラウンドとなる科目

「高度総合工学創造実験」は、産学連携教育科目と位置づけられる。従って、「ベンチャービジネス特論1, II」および学部開講科目「特許および知的財産」、「経営工学」、「産業と経済」、「工学倫理」等の同様の産学連携教育関連科目の履修を強く推奨する。

●授業内容

異なる専攻・学部の学生からなる数人で1チームを編制し、Directing Professorの指導の下に設定したプロジェクトを60時間(3カ月)〔週1日〕にわたりT A (ティーチングアシスタント)とともに遂行する。1週間のとりまとめ・準備の後、各チーム毎に発表および展示・討論を行う。

具体的な内容は次のHPを参照。

<http://www.cplaza.engg.nagoya-u.ac.jp/jikken/jikken.html>

●教科書

特になし。

必要に応じて、授業時に適宜紹介する。

●参考書

特になし。

必要に応じて、授業時に適宜紹介する。

●評価方法と基準

実験の遂行、討論と発表会により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項

特になし。

●質問への対応

原則、授業時に対応する。

研究インターンシップ1 (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目

「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容

- ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
- ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
- ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
- ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書

特になし。

●参考書

特になし。

●評価方法と基準

企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：<http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jp>を参照すること。

●質問への対応

研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (3.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目

「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容

- ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
- ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
- ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
- ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書

特になし。

●参考書

特になし。

●評価方法と基準

企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：<http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jp>を参照すること。

●質問への対応

研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (4.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目

「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容

- ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。
- ・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。
- ・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。
- ・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書

特になし。

●参考書

特になし。

●評価方法と基準

企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項

4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：<http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jp>を参照すること。

●質問への対応

研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ1 (6.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる</p> <p>●履修条件・注意事項 4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jpを参照すること。</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ1 (8.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えた人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同II」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のものに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jpを参照すること。</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

最先端理工学特論 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な知識を習得させることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし。</p> <p>●授業内容 最先端工学に関する特別講義を受講し、また、最先端工学の研究発表が行われるシンポジウムやセミナーへ参加し、レポートを提出する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 レポート</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>●質問への対応 特になし。</p>	

最先端理工学実験 (1.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	実験
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 工学における最先端研究の動向を学び、また、その研究を行うために必要な高度な実験に関する技術を習得することを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 特になし。</p> <p>●授業内容 あらかじめ設定された実験（課題実験）あるいは受講者が提案する実験（独創実験）のいずれかからテーマを選択し、実験を行う。結果を整理し、成果発表を行う。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 演習（50%）、研究成果発表とレポート（50%）で評価する。100点満点で60点以上を合格とする</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>●質問への対応 特になし。</p>	

コミュニケーション学 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	古谷 礼子 准教授

●本講座の目的およびねらい
母国語でない言葉で論文を上手に発表するために必要な留意事項を学ぶ。:留学生は日本語で発表する。日本人学生も受講することができるが、発表は英語で行う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

(1) ビデオ録画された論文発表を見る: モデル発表を見てよい発表とは何かを討論し、発表する時に必要なテクニックを学ぶ。(2) 発表する: クラスで討論した発表のテクニックを用いて、学生各自が主題を選んで論文を発表する。(3) 討論する: クラスメイトの発表を相互に評価し合う: きびしい意見、激励や助言をお互いに交わす

●教科書

なし

●参考書

(1) 「英語プレゼンテーションの技術」: 安田 正、ジャック ニクリン著: The Japan Times (2) 「研究発表の方法 留学生のためのレポート作成: 口頭発表の準備の手続き」: 産能短期大学日本語教育研究室著: 凡人社

●評価方法と基準

発表論文とclass discussion (平常点)の結果による

●履修条件・注意事項

●質問への対応

実践科学技術英語 (2.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	(未定)

●本講座の目的およびねらい
英語で行われる自動車工学の最先端技術の講義を留学生とともに学ぶことによって、実践的な科学技術英語を習得するとともに、英語で小テーマについて発表し、議論することによって、プレゼンテーション技術を学ぶ。

達成目標

1. 英語で行われる自動車工学の講義を理解できる。
2. 技術的テーマについて取りまとめ、英語で説明できる。

●バックグラウンドとなる科目

コミュニケーション学, 科学技術英語特論

●授業内容

1. 自動車産業の現状, 2. 自動車開発のプロセス, 3. ドライバ運転行動の観察と評価
4. 自動車の材料・加工技術 5. 自動車の運動・制御 6. 自動車の予防安全 7. 自動車の衝突安全 8. 車搭載組込みコンピュータシステム 9. 自動車における通信技術 10. 自動車開発におけるCAE活用状況 11. 自動車における省エネルギー技術 12. 環境にやさしい燃料と自動車触媒 13. リサイクル 14. 自動車工業における生産システム 15. 研究プロジェクト発表 (2回に分けて行う)

●教科書

毎回プリントを配布する。

●参考書

講義の進行に合わせて適宜紹介する。

●評価方法と基準

評価方法: 講義での出席と質疑 (20%), 講義毎のレポート提出 (20%), グループ研究でのプレゼンテーション (30%), グループ研究でのレポート提出 (30%)

●履修条件・注意事項

●質問への対応

科学技術英語特論 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	非常勤講師 (教務)

●本講座の目的およびねらい
研究成果をまとめて国際的学術誌に英文で投稿し、さらに国際会議において英語でプレゼンテーションを行う能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

英語学に関する諸科目

●授業内容

1. 科学英語のための文法
2. 科学英語と技術論文
3. 国際会議における英語によるプレゼンテーション
4. 効果的な履歴書の書き方と応募の仕方
5. 科学技術のための英文E-mailの書き方

●教科書

●参考書

石田他著, 科学英語の書き方とプレゼンテーション, コロナ社

●評価方法と基準

発表内容, 質疑応答, 出席状況

●履修条件・注意事項

●質問への対応

ベンチャービジネス特論 I (2.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前期
開講時期2	2年前期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
我が国の産業のバックグラウンド又は最先端を担うべきベンチャー企業の層が薄いことは頻繁に指摘される。その原因の一部は、制度の違いによるが、欧米の研究者や大学生との意識の差に起因する所も少なくない。本講座では、「大学の研究」を事業化/起業する際の技術者・研究者として必要な知識と目標を明確に教授する。大学の研究成果をベースにした技術開発・事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例を示す。

●バックグラウンドとなる科目

卒業研究, 修士課程の研究

●授業内容

1. 事業化と起業 なぜベンチャー起業か ---リスクとメリット---
2. 事業化と起業の知識と準備 ---技術者・研究者として抑えるべきポイント---
3. 大学の研究から事業化・起業へ ---企業における研究開発の進め方---
4. 事業化の推進 ---事業化のための様々な交渉と市場調査---
5. 名大発の事業化と起業(1): 電子デバイス分野
6. 名大発の事業化と起業(2): 金属、材料分野
7. 名大発の事業化と起業(3): ハイオ、医療分野
8. 名大発の事業化と起業(4): 加工装置分野
9. 名大発の事業化と起業(4): 化学分野
10. まとめ

●教科書

「実践起業論 新しい時代を創れ!」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ
その他、適宜資料配布
適宜指導

●参考書

「ベンチャー経営心得」南部修太郎/(株)アセット・ウィッツ
その他、適宜指導

●評価方法と基準

レポート提出および出席

●履修条件・注意事項

●質問への対応

ベンチャービジネス特論Ⅱ (2.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	前期課程
授業形態	講義
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年後期
開講時期2	2年後期
教員	永野 修作 准教授 枝川 明敬 教授
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>前期Iにおいて講義された事業化、企業内起業やベンチャー起業の実例等を参考に、起業化や創業のために必要不可欠な専門的な知識を公認会計士や中小企業診断士等の専門家と交えて講義する。受講生の知識の範囲を考慮し、前半では経営学の基本的知識の起業化への応用と展開について教授し、後半では、経営戦略、ファイナンスといったMBAで通常講義されている内容の基礎を理解してもらう。受講の前提として、身近な起業化の例を講義する前期Iを受講するのが望ましい。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>ベンチャービジネス特論I、卒業研究、修士課程の研究。経営学、経済学の基礎知識があればなおよい。</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済とベンチャービジネス 2. ベンチャービジネスの現状 3. ベンチャーと経営戦略 4. ベンチャーとマーケティング戦略 5. ベンチャーと企業会計 6. ベンチャーと財務戦略 7. 事例研究(経営戦略に重点) 8. 事例研究(マーケティング戦略に重点) 9. 事例研究(財務戦略に重点) 10. 事例研究(資本政策に重点: IPO企業) 11. ビジネスプラン ビジネス・アイデアと競争優位 12. ビジネスプラン 収益計画 13. ビジネスプラン 資金計画 14. ビジネスプラン ビジネスプランの運用とまとめ 15. まとめ <p>●教科書</p> <p>適宜資料配布</p> <p>●参考書</p> <p>適宜指導</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>授業中に提出される課題</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

学外実習A (1.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	前期課程		
授業形態	実習		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員 (材料)	各教員 (応用物理)	各教員 (量I)
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>学生が協力企業の研究開発部門に派遣され、所定の期間、所定のテーマに関する研究開発業務に従事することにより、企業の現場における技術的課題の設定と解決の方法を学ぶ、この経験により、実践的で幅広い見識と実社会への適応性を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>マテリアル理工学専攻の各科目</p> <p>●授業内容</p> <p>学生の研究内容は企業との合意により取り決められる。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>企業の指導担当者による評価、研究成果の口頭発表、および、レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>			

学外実習B (1.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	前期課程		
授業形態	実習		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員 (材料)	各教員 (応用物理)	各教員 (量I)
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>学生が協力企業の研究開発部門に派遣され、所定の期間、所定のテーマに関する研究開発業務に従事することにより、企業の現場における技術的課題の設定と解決の方法を学ぶ、この経験により、実践的で幅広い見識と実社会への適応性を身につける。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>マテリアル理工学専攻の各科目</p> <p>●授業内容</p> <p>学生の研究内容は企業との合意により取り決められる。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>企業の指導担当者による評価、研究成果の口頭発表、および、レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>			

国際力ベーシック (1.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	大日方 五郎 教授	成瀬 一郎 教授	
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる国際的研究リーダー育成の基礎作りを目的とする。マイクロ・ナノメカトロニクスに関わる基礎知識、英語プレゼンテーション手法を学ぶほか、国際人として必要不可欠な日本の技術・文化について、西欧と比較しながら理解を深める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>日本史、技術史、英語、技術英語</p> <p>●授業内容</p> <p>国際舞台へ進出するための基本情報、日本と海外の文化の違いの理解、英語論文力、英語プレゼンテーション・ディスカッション力、海外との研究交流の進め方等について習得する。;担当教員による講義のほか、学生は、提示された課題に対して、調査、発表、課題提出を行い、教員による評価を受ける。</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>・言語世界地図、町田 健、新潮新書;・国家の品格、藤原 正彦、新潮新書;・漢字と日本人、高島 俊男、文春新書;・千年、働いてきましたー老舗企業大國ニッポン、野村 進、角川Oneテーマ21;・産業技術史、中岡哲郎他、山川出版社</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>提示された課題に対して、調査、発表、課題提出を行い、教員による評価を受ける。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> <p>メールにて対応</p>			

医療と技術セミナー (1.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	前期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	特任教員 (マイクロ)		
●本講座の目的およびねらい			
次世代医療のプレイクルーを創出する人材の育成を目的とする。材料、生物機能、マイクロ・ナノメカトロニクスなどの工学技術を医療に応用するための考え方を学ぶ。医療におけるニーズの把握方法やニーズに対応した課題解決型の研究手法の基本を学ぶことにより、先端医療分野での研究開発力を身につける。			
●バックグラウンドとなる科目			
材料工学、生物機能、マイクロ・ナノメカトロニクス			
●授業内容			
担当教員による講義			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
提示された課題に対して、調査、発表、課題提出を行い、教員による評価を受ける。			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

エネルギー機能材料工学セミナー2A (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	セミナー		
対象履修コース	量子エネルギー工学分野		
開講時期1	1年前期		
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授	
●本講座の目的およびねらい			
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。			
●バックグラウンドとなる科目			
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学			
●授業内容			
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. マイクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
レポートおよび口述試験			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

エネルギー機能材料工学セミナー2B (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	セミナー		
対象履修コース	量子エネルギー工学分野		
開講時期1	1年後期		
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授	
●本講座の目的およびねらい			
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。			
●バックグラウンドとなる科目			
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学			
●授業内容			
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. マイクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
レポートおよび口述試験			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

エネルギー機能材料工学セミナー2C (2.0単位)			
科目区分	主専攻科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	セミナー		
対象履修コース	量子エネルギー工学分野		
開講時期1	2年前期		
教員	柚原 淳司 准教授	山田 智明 准教授	
●本講座の目的およびねらい			
エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。			
●バックグラウンドとなる科目			
粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学			
●授業内容			
1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. マイクロ構造制御のための量子ビーム応用法: 3. 材料の機能性発現のメカニズム			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
レポートおよび口述試験			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

エネルギー機能材料工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	柚原 淳司 准教授 山田 智明 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学</p> <p>●授業内容 1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. ミクロ構造制御のための量子ビーム応用法 : 3. 材料の機能性発現のメカニズム</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー機能材料工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	柚原 淳司 准教授 山田 智明 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー機能材料の基礎に関するテキスト、文献を選び、下記の項目について輪講する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 粒子線表面物性、量子エネルギー材料化学、エネルギー機能材料化学</p> <p>●授業内容 1. 原子炉材料のマイクロ構造制御と解析方法: 2. ミクロ構造制御のための量子ビーム応用法 : 3. 材料の機能性発現のメカニズム</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポートおよび口述試験</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

極限環境エネルギー材料科学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一哉 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料および各種分光測定に関する進んだ知識を修得し、ディスカッション能力を高めることを目的とする。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 これまでに行ったすべての専門系科目</p> <p>●授業内容 エネルギー材料および物性測定に関連する文献を読み、それに基づいたレジュメを作成し、発表討論をセミナー形式で行う。</p> <p>●教科書 なし</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 出席とプレゼンテーション セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とし、60点以上69点までをC、70点以上79点までをB、80点以上89点までをA、90点以上をSとする。但し、平成22年度以前入・進学者については80点以上をAとする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

極限環境エネルギー材料科学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一哉 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい セミナー2Aに準ずる</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>●授業内容</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

極限環境エネルギー材料科学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一蔵 准教授
<ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい セミナー2Bに準ずる ●バックグラウンドとなる科目 ●授業内容 ●教科書 ●参考書 ●評価方法と基準 ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 	

極限環境エネルギー材料科学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一蔵 准教授
<ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい セミナー2Cに準ずる ●バックグラウンドとなる科目 ●授業内容 ●教科書 ●参考書 ●評価方法と基準 ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 	

極限環境エネルギー材料科学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	武藤 俊介 教授 吉田 朋子 准教授 巽 一蔵 准教授
<ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい セミナー2Dに準ずる ●バックグラウンドとなる科目 ●授業内容 ●教科書 ●参考書 ●評価方法と基準 ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 	

中性子・原子核科学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	瓜谷 章 教授 渡辺 賢一 准教授 山崎 淳 助教
<ul style="list-style-type: none"> ●本講座の目的およびねらい 中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。；達成目標：1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。 ●バックグラウンドとなる科目 原子核物理学、原子物理学、量子力学 ●授業内容 1. 原子核・中性子の基本的性質；2. 核反応；3. 加速器；4. 中性子・放射線源；5. 中性子・放射線と物質との相互作用；6. 中性子・放射線検出法；7. 中性子・放射線利用技術；8. 原子核科学におけるレーザー利用 ●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。 ●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。 ●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。 成績評価基準は以下の通りである。 〈平成23年度以降入・進学者〉 100～90点：S、89～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：F 〈平成22年度以前入・進学者〉 100～80点：A、79～70点：B、69～60点：C、59点以下：D ●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応：セミナー時に対応する。 	

中性子・原子核科学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	瓜谷 章 教授 渡辺 賢一 准教授 山崎 淳 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子核物理学、原子物理学、量子力学</p> <p>●授業内容 1. 原子核・中子核の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p> <p>成績評価基準は以下の通りである。 〈平成23年度以降入・進学者〉 100～90点: S, 89～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: F 〈平成22年度以前入・進学者〉 100～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: D</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応: セミナー時に対応する。</p>	

中性子・原子核科学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	瓜谷 章 教授 渡辺 賢一 准教授 山崎 淳 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子核物理学、原子物理学、量子力学</p> <p>●授業内容 1. 原子核・中子核の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p> <p>成績評価基準は以下の通りである。 〈平成23年度以降入・進学者〉 100～90点: S, 89～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: F 〈平成22年度以前入・進学者〉 100～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: D</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応: セミナー時に対応する。</p>	

中性子・原子核科学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	瓜谷 章 教授 渡辺 賢一 准教授 山崎 淳 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子核物理学、原子物理学、量子力学</p> <p>●授業内容 1. 原子核・中子核の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p> <p>成績評価基準は以下の通りである。 〈平成23年度以降入・進学者〉 100～90点: S, 89～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: F 〈平成22年度以前入・進学者〉 100～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: D</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応: セミナー時に対応する。</p>	

中性子・原子核科学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	瓜谷 章 教授 渡辺 賢一 准教授 山崎 淳 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 中性子・放射線と原子核の相互作用を利用した研究を進めるために必要な教科書・文献を輪読・発表し、特に中性子・放射線計測法およびその利用技術の基礎知識を習得し、関連分野の研究動向について理解する。:達成目標:1. 反応断面積等の主要な概念とともに物質中での中性子・放射線の基本的な挙動を理解し、これらを説明できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子核物理学、原子物理学、量子力学</p> <p>●授業内容 1. 原子核・中子核の基本的性質:2. 核反応:3. 加速器:4. 中性子・放射線源:5. 中性子・放射線と物質との相互作用:6. 中性子・放射線検出法:7. 中性子・放射線利用技術:8. 原子核科学におけるレーザー利用</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。</p> <p>●参考書 必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。口頭発表と質疑応答、各々60%、40%とする。</p> <p>成績評価基準は以下の通りである。 〈平成23年度以降入・進学者〉 100～90点: S, 89～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: F 〈平成22年度以前入・進学者〉 100～80点: A, 79～70点: B, 69～60点: C, 59点以下: D</p> <p>●履修条件・注意事項 ●質問への対応 質問への対応: セミナー時に対応する。</p>	

エネルギー量子制御工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 博士論文の課題に関する原著論文の解題を通して、問題発見及び独創的な問題解決能力の養成と、説得力ある表現法の訓練を行う。達成目標は以下の通りである。 ・エネルギー量子制御工学の特定の分野において、解決すべき問題を発見できる。 ・発見した解決すべき問題について、独創的な問題解決のアプローチを提示できる。 ・研究成果を正確に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 エネルギー量子制御工学特論、エネルギー量子制御工学セミナー1A、1B、1C、1D</p> <p>●授業内容 1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析</p> <p>●教科書 教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける発表(20%)とそれに伴う口頭試問(50%)および他者の発表に対する質疑(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時</p>	

エネルギー量子制御工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 博士論文の課題に関する原著論文の解題を通して、問題発見及び独創的な問題解決能力の養成と、説得力ある表現法の訓練を行う。達成目標は以下の通りである。 ・エネルギー量子制御工学の特定の分野において、解決すべき問題を発見できる。 ・発見した解決すべき問題について、独創的な問題解決のアプローチを提示できる。 ・研究成果を正確に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 エネルギー量子制御工学特論、エネルギー量子制御工学セミナー1A、1B、1C、1D</p> <p>●授業内容 1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析</p> <p>●教科書 教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける発表(20%)とそれに伴う口頭試問(50%)および他者の発表に対する質疑(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時</p>	

エネルギー量子制御工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 博士論文の課題に関する原著論文の解題を通して、問題発見及び独創的な問題解決能力の養成と、説得力ある表現法の訓練を行う。達成目標は以下の通りである。 ・エネルギー量子制御工学の特定の分野において、解決すべき問題を発見できる。 ・発見した解決すべき問題について、独創的な問題解決のアプローチを提示できる。 ・研究成果を正確に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 エネルギー量子制御工学特論、エネルギー量子制御工学セミナー1A、1B、1C、1D</p> <p>●授業内容 1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析</p> <p>●教科書 教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける発表(20%)とそれに伴う口頭試問(50%)および他者の発表に対する質疑(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時</p>	

エネルギー量子制御工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 博士論文の課題に関する原著論文の解題を通して、問題発見及び独創的な問題解決能力の養成と、説得力ある表現法の訓練を行う。達成目標は以下の通りである。 ・エネルギー量子制御工学の特定の分野において、解決すべき問題を発見できる。 ・発見した解決すべき問題について、独創的な問題解決のアプローチを提示できる。 ・研究成果を正確に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 エネルギー量子制御工学特論、エネルギー量子制御工学セミナー1A、1B、1C、1D</p> <p>●授業内容 1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析</p> <p>●教科書 教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける発表(20%)とそれに伴う口頭試問(50%)および他者の発表に対する質疑(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 随時</p>	

エネルギー量子制御工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	山本 章夫 教授 遠藤 知弘 助教
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>博士論文の課題に関する原著論文の読解を通して、問題発見及び独創的な問題解決能力の養成と、読解力ある表現法の訓練を行う。達成目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー量子制御工学の特定の分野において、解決すべき問題を発見できる。 ・発見した解決すべき問題について、独創的な問題解決のアプローチを提示できる。 ・研究成果を正確に分かりやすく伝えることが出来る。 <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>エネルギー量子制御工学特論、エネルギー量子制御工学セミナー1A、1B、1C、1D</p> <p>●授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原子炉設計計算手法 2. 感度および不確かさ解析 3. 最適化手法 4. 原子力安全 5. 臨界安全 6. 原子炉雑音解析 <p>●教科書</p> <p>教科書は初回に選定する。原著論文はセミナーの進展にあわせて適宜指定する。</p> <p>●参考書</p> <p>なし</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>セミナーにおける発表(20%)とそれに伴う口頭試問(50%)および他者の発表に対する質疑(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> <p>随時</p>	

先進的エネルギー源材料セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先進的エネルギー源実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容</p> <p>固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書</p> <p>輪読する教科書については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>セミナーにおける口頭発表(70%)とそれに対する質疑応答(30%)により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> <p>セミナー時に対応する。</p>	

先進的エネルギー源材料セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先進的エネルギー源実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容</p> <p>固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書</p> <p>輪読する教科書については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>セミナーにおける口頭発表(70%)とそれに対する質疑応答(30%)により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> <p>セミナー時に対応する。</p>	

先進的エネルギー源材料セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教
<p>●本講座の目的およびねらい</p> <p>固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先進的エネルギー源実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目</p> <p>物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学</p> <p>●授業内容</p> <p>固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ。</p> <p>●教科書</p> <p>輪読する教科書については、学期の初めに選定する。</p> <p>●参考書</p> <p>必要に応じてセミナーで紹介する。</p> <p>●評価方法と基準</p> <p>セミナーにおける口頭発表(70%)とそれに対する質疑応答(30%)により評価する。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p> <p>セミナー時に対応する。</p>	

先端的エネルギー源材料セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教

●本講座の目的およびねらい
 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先端的エネルギー源実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。

●バックグラウンドとなる科目
 物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学

●授業内容
 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ

●教科書
 輪読する教科書については、学期の初めに選定する。

●参考書
 必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準
 セミナーにおける口頭発表（70%）とそれに対する質疑応答（30%）により評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 セミナー時に対応する。

先端的エネルギー源材料セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	長崎 正雅 教授 松波 紀明 准教授 吉野 正人 助教

●本講座の目的およびねらい
 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の教科書・文献を輪読・発表し、先端的エネルギー源実現の鍵を握る機能材料の機能発現のメカニズムを理解するための基礎を習得するとともに、科学技術英語の読解力を高める。

●バックグラウンドとなる科目
 物性物理学、量子力学、統計力学、熱力学

●授業内容
 固体物理学、固体化学、材料科学、量子力学、熱・統計力学等の分野の中から、いくつかの話題を選ぶ

●教科書
 輪読する教科書については、学期の初めに選定する。

●参考書
 必要に応じてセミナーで紹介する。

●評価方法と基準
 セミナーにおける口頭発表（70%）とそれに対する質疑応答（30%）により評価する。

●履修条件・注意事項

●質問への対応
 セミナー時に対応する。

エネルギー材料プロセスセミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	榎田 洋一 教授 澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教

●本講座の目的およびねらい
 エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士後期課程で必要な資質を習得する。

●バックグラウンドとなる科目
 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学

●授業内容
 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案、2. エネルギー材料プロセスの理論解析、3. エネルギー材料プロセスの実験解析、4. 口頭による研究成果発表、5. 論文作成

●教科書
 特に使用しない

●参考書
 特に使用しない

●評価方法と基準
 口頭試験および演習レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー材料プロセスセミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	榎田 洋一 教授 澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教

●本講座の目的およびねらい
 エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士後期課程で必要な資質を習得する。

●バックグラウンドとなる科目
 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学

●授業内容
 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案、2. エネルギー材料プロセスの理論解析、3. エネルギー材料プロセスの実験解析、4. 口頭による研究成果発表、5. 論文作成

●教科書
 特に使用しない

●参考書
 特に使用しない

●評価方法と基準
 口頭試験および演習レポート

●履修条件・注意事項

●質問への対応

エネルギー材料プロセスセミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	榎田 洋一 教授 澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士後期課程に必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案, 2. エネルギー材料プロセスの理論解析, 3. エネルギー材料プロセスの実験解析, 4. 口頭による研究成果発表, 5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料プロセスセミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	榎田 洋一 教授 澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士後期課程に必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案, 2. エネルギー材料プロセスの理論解析, 3. エネルギー材料プロセスの実験解析, 4. 口頭による研究成果発表, 5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料プロセスセミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	榎田 洋一 教授 澤田 佳代 准教授 杉山 貴彦 准教授 平林 大介 助教
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー材料プロセス工学に関する公式な研究提案を企画立案し、文書および口頭で提案するとともに、理論または実験研究によって、それを実践することにより、マテリアル理工学専攻の博士後期課程に必要な資質を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 原子力燃料サイクル:エネルギー材料プロセス工学</p> <p>●授業内容 1. エネルギー材料プロセスに関する研究の企画立案, 2. エネルギー材料プロセスの理論解析, 3. エネルギー材料プロセスの実験解析, 4. 口頭による研究成果発表, 5. 論文作成</p> <p>●教科書 特に使用しない</p> <p>●参考書 特に使用しない</p> <p>●評価方法と基準 口頭試験および演習レポート</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口述発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

熱エネルギーシステム工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	辻 義之 教授 伊藤高啓 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい エネルギー変換、利用に関わる多様な熱流体現象について理解し、問題解決能力を高める。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 流体力学、熱力学、伝熱工学、移動現象論</p> <p>●授業内容 関連の教科書及び文献の輪講</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 レポート及び口頭発表</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー環境工学セミナー2A (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年前期
教員	山澤 弘実 教授 森泉 純准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義終了時に対応する。
内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー2B (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1	1年後期
教員	山澤 弘実 教授 森泉 純准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
講義終了時に対応する。担当教員連絡先:内線 5134 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー2C (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1	2年前期
教員	山澤 弘実 教授 森泉 純准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー2D (2.0単位)

科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1	2年後期
教員	山澤 弘実 教授 森泉 純准教授 平尾 茂一 助教

- 本講座の目的およびねらい
博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。
- バックグラウンドとなる科目
保健物理学、放射線計測学、移動現象論
- 授業内容
以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題
- 教科書
輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。
- 参考書
なし
- 評価方法と基準
セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応
内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp

エネルギー環境工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 エネルギー理工学専攻
開講時期1	3年前期
教員	山澤 弘栄 教授 森泉 純 准教授 平尾 茂一 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を得るために文献調査と実験的・理論的研究を指導教員との議論しながら進めることにより、独自に問題発見・解決する能力、研究の方向を定め進捗を制御する能力、問題に独創的に取り組む能力を養う。:達成目標:エネルギー環境分野の独立した研究者として独自に研究を進めることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 保健物理学、放射線計測学、移動現象論</p> <p>●授業内容 以下の分野のいずれかについて博士論文を作成するために、文献レビュー、研究の方針、方法および進捗について発表および議論を行う。:1. 放射線防護:2. 環境放射能・放射線:3. エネルギー使用と環境安全:4. 物質循環と環境問題</p> <p>●教科書 輪読する教科書については、年度初めに適宜選定する。論文については、セミナーの進行に合わせて論文を適宜選定する。</p> <p>●参考書 なし</p> <p>●評価方法と基準 セミナーにおける口頭発表とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 内線 3781 yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年前期
教員	山崎 耕造 教授 庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、応用数学、プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中の発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	1年後期
教員	山崎 耕造 教授 庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、応用数学、プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中の発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年前期
教員	庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学、応用数学、プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナーの中の発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	2年後期
教員	庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 応用数学, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

エネルギー材料デバイス工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野
開講時期1	3年前期
教員	庄司 多津男 准教授 有本 英樹 助教
<p>●本講座の目的およびねらい プラズマとエネルギー材料に関連する原著論文をセミナー形式で学ばせる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 電気磁気学, 応用数学, プラズマ理工学</p> <p>●授業内容 セミナー形式による原著論文読解</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 セミナー中での発表及び議論</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>	

量子ビーム物性工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年前期 1年前期
教員	曾田 一雄 教授 加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。:達成目標: 1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。 2) 研究について適正に議論できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学, 統計熱力学, 電磁気学, 材料物性学, 半導体物性, 表面科学, 粒子線物理学, 放射線物理学</p> <p>●授業内容 1. 原子配列と電子構造: 2. 光子と物質との相互作用: 3. 荷電粒子と物質との相互作用: 4. 放射光を用いた表面の物性評価: 5. 電子分光による表面の物性評価: 6. イオンビームを用いた表面の物性評価: 7. 赤外分光による表面の物性評価: 8. 金属の電子構造と物性: 9. 金属表面上分子の構造と反応: 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態: 11. 半導体ナノ構造の電子状態: 12. 電子系の励起と構造変化: 13. 表面界面反応の制御: 14. 関連する最新文献に関する討論: 15. 最新研究結果の報告と討論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(60%)と質疑応答(40%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>	

量子ビーム物性工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年後期 1年後期
教員	曾田 一雄 教授 加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。:達成目標: 1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。 2) 研究について適正に議論できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学, 統計熱力学, 電磁気学, 材料物性学, 半導体物性, 表面科学, 粒子線物理学, 放射線物理学</p> <p>●授業内容 1. 原子配列と電子構造: 2. 光子と物質との相互作用: 3. 荷電粒子と物質との相互作用: 4. 放射光を用いた表面の物性評価: 5. 電子分光による表面の物性評価: 6. イオンビームを用いた表面の物性評価: 7. 赤外分光による表面の物性評価: 8. 金属の電子構造と物性: 9. 金属表面上分子の構造と反応: 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態: 11. 半導体ナノ構造の電子状態: 12. 電子系の励起と構造変化: 13. 表面界面反応の制御: 14. 関連する最新文献に関する討論: 15. 最新研究結果の報告と討論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表(60%)と質疑応答(40%)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>	

量子ビーム物性工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年前期
教員	曾田 一雄 教授 加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学</p> <p>●授業内容 1. 原子配列と電子構造；2. 光子と物質との相互作用；3. 荷電粒子と物質との相互作用；4. 放射光を用いた表面の物性評価；5. 電子分光による表面の物性評価；6. イオンビームを用いた表面の物性評価；7. 赤外分光による表面の物性評価；8. 金属の電子構造と物性；9. 金属表面上分子の構造と反応；10. 半導体・金属界面の構造と電子状態；11. 半導体ナノ構造の電子状態；12. 電子系の励起と構造変化；13. 表面界面反応の制御；14. 関連する最新文献に関する討論；15. 最新研究結果の報告と討論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表（60%）と質疑応答（40%）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>	

量子ビーム物性工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年後期
教員	曾田 一雄 教授 加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学</p> <p>●授業内容 1. 原子配列と電子構造 2. 光子と物質との相互作用 \ 3. 荷電粒子と物質との相互作用 \ 4. 放射光を用いた表面の物性評価 \ 5. 電子分光による表面の物性評価 \ 6. イオンビームを用いた表面の物性評価 \ 7. 赤外分光による表面の物性評価 \ 8. 金属の電子構造と物性 \ 9. 金属表面上分子の構造と反応 \ 10. 半導体・金属界面の構造と電子状態 \ 11. 半導体ナノ構造の電子状態 \ 12. 電子系の励起と構造変化 \ 13. 表面界面反応の制御 \ 14. 関連する最新文献に関する討論 \ 15. 最新研究結果の報告と討論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表（60%）と質疑応答（40%）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>	

量子ビーム物性工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	3年前期
教員	曾田 一雄 教授 加藤 政彦 助教
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解する。関連する最新の文献の輪読および自分の研究成果の発表を行う。達成目標：1) 量子ビームを用いた材料の表面・界面の評価および物性制御の基礎を理解し、説明できる。2) 研究について適正に議論できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子力学、統計熱力学、電磁気学、材料物性学、半導体物性、表面科学、粒子線物理学、放射線物理学</p> <p>●授業内容 1. 原子配列と電子構造；2. 光子と物質との相互作用；3. 荷電粒子と物質との相互作用；4. 放射光を用いた表面の物性評価；5. 電子分光による表面の物性評価；6. イオンビームを用いた表面の物性評価；7. 赤外分光による表面の物性評価；8. 金属の電子構造と物性；9. 金属表面上分子の構造と反応；10. 半導体・金属界面の構造と電子状態；11. 半導体ナノ構造の電子状態；12. 電子系の励起と構造変化；13. 表面界面反応の制御；14. 関連する最新文献に関する討論；15. 最新研究結果の報告と討論</p> <p>●教科書</p> <p>●参考書</p> <p>●評価方法と基準 口頭発表（60%）と質疑応答（40%）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応 セミナー時に対応する</p>	

量子ビーム計測工学セミナー2A (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順彦 教授 雷田 英生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。</p> <p>達成目標 1. 与えられた小テーマにつき、関連知識を自力で修得し、課題発見とともに、独自の解決策を立案できる。 2. 発見した課題の解決策の研究計画を策定し、具体的な研究システムを設計できる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 博士論文取りまとめに関して、適切な研究小テーマを選定し、文献調査、課題整理、解法の検討および具体的な解析結果について報告および討論を行う。</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 IEEE Trans., Nucl. Sci., Nucl. Instrum. Meth., Rev. Sci. Instrum., 等の学術雑誌における関連論文</p> <p>●評価方法と基準 定期的なレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>ただし、報告および議論の十分な準備をして臨むこと。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に適宜対応する。</p>	

量子ビーム計測工学セミナー2B (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	1年後期 1年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。</p> <p>達成目標 1. 与えられた小テーマにつき、関連知識を自力で修得し、課題整理とともに、独自の解決策を立案できる。 2. 発見した課題の解決策の研究計画を策定し、具体的な研究システムを設計できる。 3. 具体的な研究システムを構築し、独自に研究を進めることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 博士論文取りまとめに関して、適切な研究小テーマを選定し、文献調査、課題整理、解法の検討および具体的な解析結果について報告および討論を行う。</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum., 等の学術雑誌における関連論文</p> <p>●評価方法と基準 定期的なしレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>ただし、報告および議論の十分な準備をして臨むこと。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に適宜対応する。</p>	

量子ビーム計測工学セミナー2C (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年前期 2年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。</p> <p>達成目標 1. 小テーマ課題の解決策の研究計画を策定し、具体的な研究システムを設計できる。 2. 具体的な研究システムを構築し、独自に研究を進めることができる。 3. 研究成果をとりまとめ、学術雑誌等へ論文投稿ができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 博士論文に関連して適当な研究小テーマを選定し、文献調査、問題整理、解法の検討、および具体的な解析結果について、報告および討論を行う。</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum., 等の学術雑誌における関連論文</p> <p>●評価方法と基準 定期的なしレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>ただし、報告および議論の十分な準備をして臨むこと。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に適宜対応する。</p>	

量子ビーム計測工学セミナー2D (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	2年後期 2年後期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。</p> <p>達成目標 1. 研究システムを改良し、さらに小テーマ課題を進展させ、独自に研究内容を向上することができる。 2. 研究成果をとりまとめ、学術雑誌等へ論文投稿ができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 博士論文に関連して適当な研究小テーマを選定し、文献調査、問題整理、解法の検討、および具体的な解析結果について、報告および討論を行う。</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum., 等の学術雑誌における関連論文</p> <p>●評価方法と基準 定期的なしレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>ただし、報告および議論の十分な準備をして臨むこと。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に適宜対応する。</p>	

量子ビーム計測工学セミナー2E (2.0単位)	
科目区分	主専攻科目
課程区分	後期課程
授業形態	セミナー
対象履修コース	量子エネルギー工学分野 量子工学専攻
開講時期1	3年前期 3年前期
教員	井口 哲夫 教授 河原林 順 准教授 富田 英生 准教授
<p>●本講座の目的およびねらい 量子ビーム計測工学の分野から、受講者の博士論文に関連する小テーマを与え、その解答を作成することによって、本質的な問題の発見と独創的な解決法を見出す能力を養う。</p> <p>達成目標 1. 研究システムを改良し、さらに小テーマ課題を進展させ、独自に研究を向上することができる。 2. 研究成果について、学術雑誌等への論文投稿とともに、博士の学位論文として系統的にとりまとめることができる。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 量子ビーム計測学セミナー1-A,B,C,D, 電磁気学、量子力学、原子物理学、物性物理学、放射線計測学</p> <p>●授業内容 博士論文に関連して適当な研究小テーマを選定し、文献調査、問題整理、解法の検討、および具体的な解析結果について、報告および討論を行う。</p> <p>●教科書 特になし</p> <p>●参考書 IEEE Trans. Nucl.Sci., Nucl.Instrum.Meth., Rev.Sci.Instrum., 等の学術雑誌における関連論文</p> <p>●評価方法と基準 定期的なしレポート資料、口頭報告とそれに対する質疑応答により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。</p> <p>●履修条件・注意事項 特になし。</p> <p>ただし、報告および議論の十分な準備をして臨むこと。</p> <p>●質問への対応 セミナー時に適宜対応する。</p>	

実験指導体験実習 1 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
高度総合工学創造実験において、企業からのDirecting Professorと学部及び前期課程の学生の間に立ち、指導の体験を通して、後期課程の学生の教育と研究及び指導者としての養成に役立てる。

●バックグラウンドとなる科目
特になし。

●授業内容
高度総合工学創造実験において、実験結果の解釈、とりまとめ、発表・展示の指導をDirecting Professorの指導の元におこなう。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

ただし、授業時に適宜参考となる文献・資料を紹介する。

●評価方法と基準
とりまとめと指導性により、目標達成度を評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
原則、特になし。

ただし、Directing Professorが与える実験・演習課題について、基礎的な知識や技術を身に付けていることが望ましい。

●質問への対応
授業時に対応する。

実験指導体験実習 2 (1.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	永野 修作 准教授

●本講座の目的およびねらい
ベンチャー・ビジネス・ラボトリー等の最先端理工学実験において、受講生の実験指導を通じて、後期課程学生の研究・教育及び指導者としての養成に役立てる。

●バックグラウンドとなる科目
特になし。

●授業内容
最先端理工学実験において、担当教官の下で課題研究および独創研究の指導を行う。

●教科書
●参考書

●評価方法と基準
実験・演習のとりまとめと指導性(70%)、面接(30%)で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

●履修条件・注意事項
●質問への対応

研究インターンシップ2 (2.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数20日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項
4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：<http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jp>を参照すること。

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (3.0単位)

科目区分	総合工科学目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期 1	1年前後期
開講時期 2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授

●本講座の目的およびねらい
就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。

●バックグラウンドとなる科目
「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論I」または「同 II」を受講することが強く推奨される。

●授業内容
・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。

●教科書
特になし。

●参考書
特になし。

●評価方法と基準
企業において研究インターンシップに従事した総日数21日以上40日以下のものに与えられる。

●履修条件・注意事項
4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：<http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jp>を参照すること。

●質問への対応
研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。

研究インターンシップ2 (4.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数41日以上60日以下のものに与えられる</p> <p>●履修条件・注意事項 4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jpを参照すること。</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフが随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (6.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数61日以上80日以下のものに与えられる</p> <p>●履修条件・注意事項 4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jpを参照すること。</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

研究インターンシップ2 (8.0単位)	
科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	実習
全専攻・分野	共通
開講時期1	1年前後期
開講時期2	2年前後期
教員	井口 哲夫 教授
<p>●本講座の目的およびねらい 就業体験を目的とする従来のインターンシップとは異なり、企業と大学が協力して博士後期課程に相応しい研究テーマを設定し、両者の指導の下で1～6ヶ月に亘る長期のインターンシップを実施する。それにより、より高度な専門分野に加え学際分野の研究開発能力を備えた人材と、研究企画・統括などに優れた見識を備えたリーダー的人材の育成を目指す。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 「研究インターンシップ」を受講する学生に対しては、その事前指導として、短期の「特許および知的財産」を受講すること、「ベンチャービジネス特論1」または「同 11」を受講することが強く推奨される。</p> <p>●授業内容 ・企業と大学の協議のもとで設定された課題に学生が応募する。・学生・教員・企業指導者間で課題を調整したのち、大学で守秘義務・知的財産保護等に関する事前指導を受ける。また各自課題に取り組むための専門知識の獲得にも努める。・1～6ヶ月間企業に滞在しインターンシップを実施する。・終了後に、参加学生、大学教員、企業側指導者間で報告会と技術交流会を開催する。</p> <p>●教科書 特になし。</p> <p>●参考書 特になし。</p> <p>●評価方法と基準 企業において研究インターンシップに従事した総日数81日以上のもに与えられる。</p> <p>●履修条件・注意事項 4月上旬に開催される研究インターンシップガイダンスに出席することを勧める。また、工学研究科ホームページの研究インターンシップのWebサイト：http://www.rdint.engg.nagoya-u.ac.jpを参照すること。</p> <p>●質問への対応 研修時に直接指導するスタッフ等が随時対応。</p>	

インターディシプリナリィ・スタディ1 (2.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員 (マイクロ)		
<p>●本講座の目的およびねらい 分野の垣根を越え、異分野の融合・促進を進めることのできる学際研究リーダーを育成するために、複数分野にわたる基礎的知識を習得する。</p> <p>●バックグラウンドとなる科目 教員により提示されたトピックスについて、学生は調査・発表を行い、教員による評価を受ける。</p> <p>●教科書 ●参考書</p> <p>●評価方法と基準 取り組み方、発表内容</p> <p>●履修条件・注意事項</p> <p>●質問への対応</p>			

インターディシプリナリィ・スタディII (2.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員 (マイクロ)		
●本講座の目的およびねらい			
分野の垣根を越え、異分野の融合・促進を進めることのできる学際研究リーダーを育成するために、複数分野にわたる高度な知識を習得する。			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容			
教員により提示されたトピックスについて、学生は調査・発表を行い、教員による評価を受ける。			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
取り組み方、発表内容			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

国際アドバンスト (2.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	各教員 (マイクロ)		
●本講座の目的およびねらい			
総合力・国際力を持って国際舞台で活躍できる人材を育成するために、海外の研究開発を体験する。			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容			
海外の研究機関等での研究開発現場を体験する。帰国後、担当教員に研究活動の内容を報告し評価を受ける。			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
取り組み方、発表内容			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

プロジェクト・シミュレーション (2.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	特任教員 (マイクロ)		
●本講座の目的およびねらい			
研究プロジェクトの模擬実施を行うことで、バーチャルなプロジェクトにおける模擬体験を通じ、プロジェクトのチーム構築、研究の進め方、プロジェクトの成功例、失敗例を通して、課題解決力を身につける。			
●バックグラウンドとなる科目			
●授業内容			
担当教員が提示する模擬研究プロジェクトについて、それに関連する過去の事例、現状の技術動向などを調査し、プロジェクトにおいて生じた課題を取り上げる。学生は課題の提示を受ける形で、プロジェクトのニーズおよび独創性、プロジェクトの意義、実施計画、想定される課題を整理、提示された課題の解決策をプレゼンテーションし、担当教員による評価を受ける。			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
提示された課題に対して、調査、発表、課題提出を行い、教員による評価を受ける。			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

国際技術者倫理および産学連携セミナー (2.0単位)			
科目区分	総合工学科目		
課程区分	後期課程		
授業形態	講義		
対象履修コース	材料工学分野	量子エネルギー工学分野	応用物理学分野
開講時期1	1年前後期	1年前後期	1年前後期
開講時期2	2年前後期	2年前後期	2年前後期
教員	特任教員 (マイクロ)		
●本講座の目的およびねらい			
マイクロ・ナノメカトロニクス分野における国際的研究リーダーとなるために必要な研究者、技術者に求められる倫理を身につける。また、大学の研究開発、産業界における研究開発の比較を通して、社会的な要請に基づいた産学連携による研究開発のあり方について学ぶ。			
●バックグラウンドとなる科目			
倫理学			
●授業内容			
担当教員による講義			
●教科書			
●参考書			
●評価方法と基準			
提示された課題に対して、調査、発表、課題提出を行い、教員による評価を受ける。			
●履修条件・注意事項			
●質問への対応			

プロジェクト・プロポーザル (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	講義
対象履修コース	材料工学分野 量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期 1	1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期 2	2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員	各教員 (マイクロ)

- 本講座の目的およびねらい
研究プロジェクトの企画・立案力を習得する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
プロジェクトのニーズおよび獨創性、プロジェクトの意義、実施計画、想定される課題およびその解決方法、などを提案し、担当教員による評価を受ける。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
取り組み方、発表内容
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応

国際ワークショップ企画 (2.0単位)

科目区分	総合工学科目
課程区分	後期課程
授業形態	講義
対象履修コース	材料工学分野 量子エネルギー工学分野 応用物理学分野
開講時期 1	1年前後期 1年前後期 1年前後期
開講時期 2	2年前後期 2年前後期 2年前後期
教員	特任教員 (マイクロ)

- 本講座の目的およびねらい
国際性と企画力の向上を目的として、国際ワークショップを実際に企画し、運営する。
- バックグラウンドとなる科目
- 授業内容
国際ワークショップの企画、運営を通して、発表者のアレンジメント、会場の整備等を含めたマネジメント技術等、総合的な企画、運営技術を学ぶ。
- 教科書
- 参考書
- 評価方法と基準
提示された課題に対して、調査、発表、課題提出を行い、教員による評価を受ける。
- 履修条件・注意事項
- 質問への対応